

久米邦武編『特命全権大使米欧回覧実記』（1878）から、図版と、本文の図版に関連する部分を抜き出したものです。

第二編 英吉利国ノ部

目次

第二編 第二十二卷	ロンドン/倫敦.....	2
第二編 第二十三卷	ロンドン/倫敦.....	10
第二編 第二十四卷	ロンドン/倫敦.....	12
第二編 第二十五卷	ロンドン/倫敦.....	21
第二編 第二十六卷	リヴァプール/里味陂.....	23
第二編 第二十七卷	リヴァプール/里味陂.....	27
第二編 第二十八卷	マンチェスター/漫識特.....	31
第二編 第二十九卷	マンチェスター/漫識特.....	33
第二編 第三十卷	グラスゴー/哥羅斯哥.....	35
第二編 第三十一卷	エディンバラ/壹丁堡.....	37
第二編 第三十二卷	スコットランド.....	44
第二編 第三十三卷	ニューカッスル/新城.....	52
第二編 第三十五卷	ブラットフォード/ブラットホルト.....	54
第二編 第三十六卷	シェフィールド/舌非力.....	58
第二編 第三十七卷	スタフォード・ウォリック/スタッホルト及ヒウォリッキ州...	60
第二編 第三十九卷	チェスター.....	62
第二編 第四十卷	ロンドン/倫敦.....	64

倫敦橋 〈右二銅標ヲ望ミ左二聖「ホール」寺ミユ〉



明治五年七月十四日

達迷斯河ハ、倫敦貿易ノ水路ニテ、河幅一千尺ニスク、最下流ニ架シ渡セル橋ヲ倫敦橋ト云、諸商船ノ上リ来ルハ、此ニ至テ止ル〈凡ソ橋ヲ架スルトキハ船舶夫ヲ過キテ上ルコトヲ得ス、故ニ河流ニ橋ヲ架スルハ船舶ノ航スヘキヤ否ヤヲ測量シテ終古船運ノ限り此ニ尽クルヲ定メテ架スコト西洋架橋ノ達法ナリ、否スレハ国ノ鴻益ヲ妨害ス〉、此ヨリ上流ニハ、唯小船ヲ往来スルノミ、倫敦橋ノ下流ハ、倫敦貿易ノ港ニテ、橋ノ北岸ニ運上所ヲ建ツ、宏壮ナル白石ノ大館ニテ、白、蘭、独逸、暹、瑞ノ蒸気商船ハ、常ニ此マテ上リ来ル、風帆船ハ河流曲折スルヲ以テ、進行ニ難ク、猶数十英里ノ下マテ入ルノミ、運上所ノ下流ニ、連接シテ船廠アリ、倫敦船廠ト云、此内ニ烟草倉、陶器倉、酒倉等アリ、桶ヲ積ミ箱ヲ堆シ、常ニ处处ニ山ヲナシテ、全府ニ配布シ、余波ハ各都邑ニ及フ

倫敦隧道ノ内景



明治五年七月十四日

倫敦船廠ノ下流ニ於テ、河南北ノ往来ヲ便ニセンカ為メニ、「ブルネール」ト云人ノ發明ニテ、一千八百四十三年ニ削リ抜ケル、河底ノ隧道ハ、世ニ高名ナル築造ニテ、高サ二丈五尺、広サ一丈二尺、洞穴ヲ磚瓦ニテ築固メ、河ノ底ヲクハリテ、人ヲ往来セシム、船舶ハ上ニ駛行シ、行客ハ下ニ通行ス、倫敦ノ奇中ノ一タリ、洞口ハ石礎ニテ上下スルユヘニ、馬車ヲ通セス、河ノ幅ハ百数十間ニ及フ、洞中ニハ瓦斯燈ヲ点ス、風氣通暢ヲカキ、近来ニテハ余リ通行モ繁昌セスト、然トモ水底ニ道ヲ通スルノ偉業ヲ創メタルハ、此隧道ヲ創始トス、近頃鐵道会社ヨリ引受ケテ、府街ヲ回ル地底鐵道ノ線ニ接セントスルト云

「レーゼント、ストレート」〈倫敦第一ノ美街〉



明治五年七月十四日

河ニ沿フテ海軍省アリ、其他大蔵省、陸軍省等、ミナ宏大ナル白石ノ大廈ヲ連ネ、其氣象ノ宏壯ナル、米ノ華盛頓、新約克ハ已ニ陋巷ノ思ヒヲナサシム、「チャーリンクロス」「レーゼント」街等繁華ナル衝街アリ、「ネショナル、ガルリー」ノ衝頭ニ、広域ヲ修錮シ「ネルソン」氏ヲ記念セル石標アリ

「チャーリンクロス」汽車駅



明治五年七月十四日

河ニ沿フテ海軍省アリ、其他大蔵省、陸軍省等、ミナ宏大ナル白石ノ大廈ヲ連ネ、其氣象ノ宏壯ナル、米ノ華盛頓、新約克ハ已ニ陋巷ノ思ヒヲナサシム、「チャーリンクロス」「レーゼント」街等繁華ナル衝街アリ、「ネショナル、ガルリー」ノ衝頭ニ、広域ヲ修錮シ「ネルソン」氏ヲ記念セル石標アリ

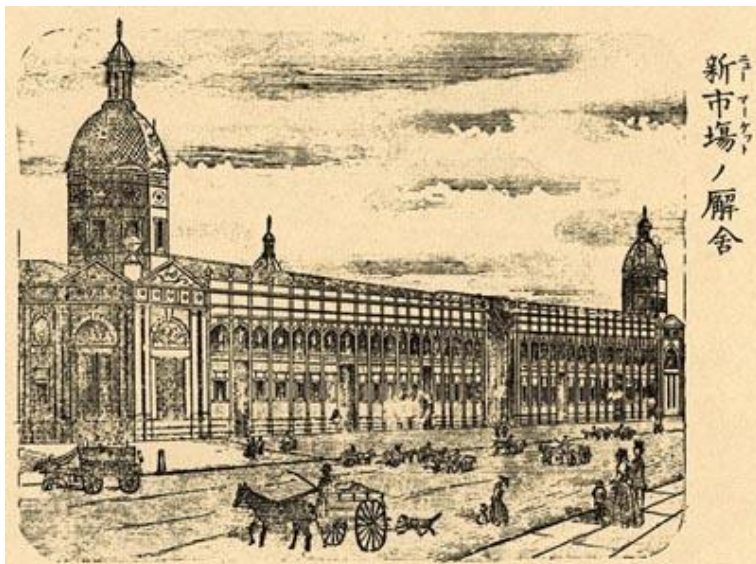
倫敦「シチー」之廓門



明治五年七月十四日

府中ヲ六部ニ分ツ、東部ヲ「シチー、オフ、ロンドン」トス、倫敦ノ旧部ニテ、地積僅ニ六百「エーカー」(我二百四十町)ニスキス、当府ノ最モ繁華ナル貿易ノ地ナリ、人口十六万ニ越エ、特殊ノ權利ヲ有シ、他部ノ界ニハ街頭ニ閉門ヲ作り、府ノ知事、其鍵ヲ預ル、英国王モ其承諾ヲ得テ開門セサレハ、敢テ入ルヲ得ス、之ヲ別段ナル「コルポレーション」ノ地トシテ、自然ニ不羈独立ノ体ヲナセリ、貿易都府ハ、其生理總テ工商ノ業ニ属シ、会社ヲ協結スルノ極ハ、全府一体ヲナシテ、自然ニ共和政治ノ体アリ、蓋シ共和政治ナルモノハ、元会社ノ流行甚タ盛ナルヨリ、遂ニ治体ヲ創メタルモノ歟、英国ノ各都府ニ、種種「コルポレーション」ノ会社行ハルレトモ、倫敦「シチー」ハ殊ニ格別ノ免許アル処トス

新市場ノ廨舎



倫敦運上所

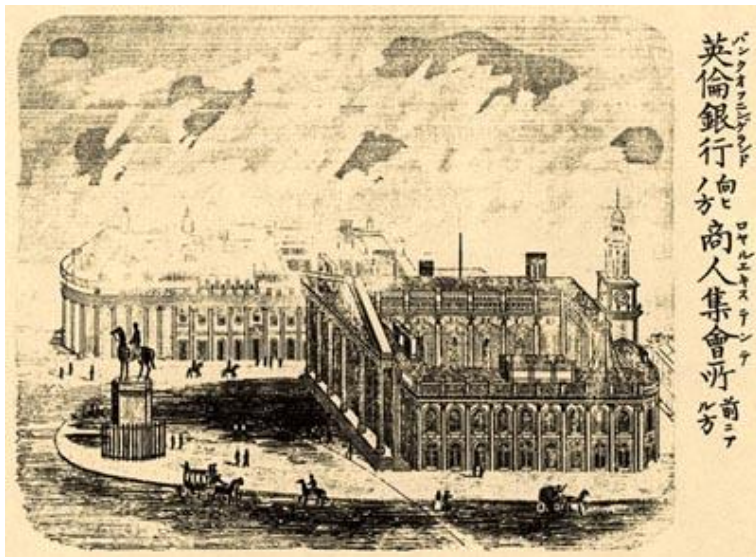


明治五年七月十四日

此一部ハ、古代ヨリノ旧都府ナレハ、街路モ狹隘ニテ不規則ナリ、其繁昌ニ従ヒ、往来稠ク、肆店盛ンニ常ニ鬧熱ノ場ヲナス、達迷斯河ノ下流、倫敦船廠ノ上流ニ、倫敦ノ古城アリ、「シチー」ノ地域ハ、其西岸ニオコリ、運上所及ヒ倫敦橋ヲ越エテ、「ブラッキ、プレヤス」橋ノ上流マテ、達迷斯ノ北岸ニソフタル、一帶ノ区域中ニ於テ、六大街衢ノ衝頭ヲシメ、「メソジョン」館（府庁）、銀行、及ヒ相場会所ヲ建ツ、銀行ハ即「バンク、オフ、エンケラン

ト」ナリ、此他「シチー」内ニ至大ノ銀行ハ猶多シ、相場会所ハ、所謂ル「ロヤル、エキステンチ」ニテ、商人此ニ集会シ、入札シテ相場ヲ定メ、商事ノ取組ヲ定ムル所ナリ、ミナ白石造ノ大廈ニテ、建築ノ壯麗堅固ナル、府中ノ眼目トスヘキ美觀ナリ、其他「マーケット」〈市場〉ノ長廡、電信総局、郵便総局〈新旧相對ス〉等モ、ミナ此地ニアリ

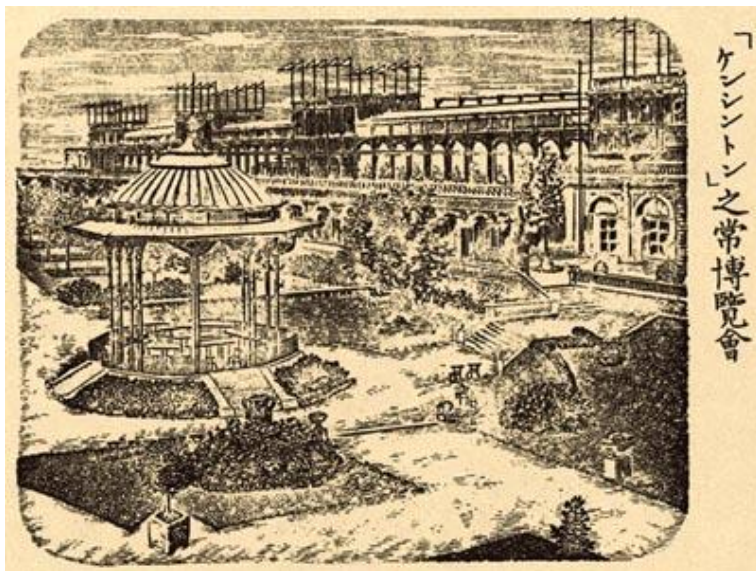
英倫銀行〈向ヒノ方〉 商人集会所〈前ニアル方〉



明治五年七月十四日

此一部ハ、古代ヨリノ旧都府ナレハ、街路モ狹隘ニテ不規則ナリ、其繁昌ニ従ヒ、往来稠ク、肆店盛シニ常ニ鬧熱ノ場ヲナス、達迷斯河ノ下流、倫敦船廠ノ上流ニ、倫敦ノ古城アリ、「シチー」ノ地域ハ、其西岸ニオコリ、運上所及ヒ倫敦橋ヲ越エテ、「ブラッキ、プレヤス」橋ノ上流マテ、達迷斯ノ北岸ニソフタル、一帯ノ区域中ニ於テ、六大街衢ノ衝頭ヲシメ、「メソジョン」館〈府庁〉、銀行、及ヒ相場会所ヲ建ツ、銀行ハ即「バンク、オフ、エンケラント」ナリ、此他「シチー」内ニ至大ノ銀行ハ猶多シ、相場会所ハ、所謂ル「ロヤル、エキステンチ」ニテ、商人此ニ集会シ、入札シテ相場ヲ定メ、商事ノ取組ヲ定ムル所ナリ、ミナ白石造ノ大廈ニテ、建築ノ壯麗堅固ナル、府中ノ眼目トスヘキ美觀ナリ、其他「マーケット」〈市場〉ノ長廡、電信総局、郵便総局〈新旧相對ス〉等モ、ミナ此地ニアリ

「ケンシントン」之常博覽會



同上列品館ノ内景



明治五年七月十六日

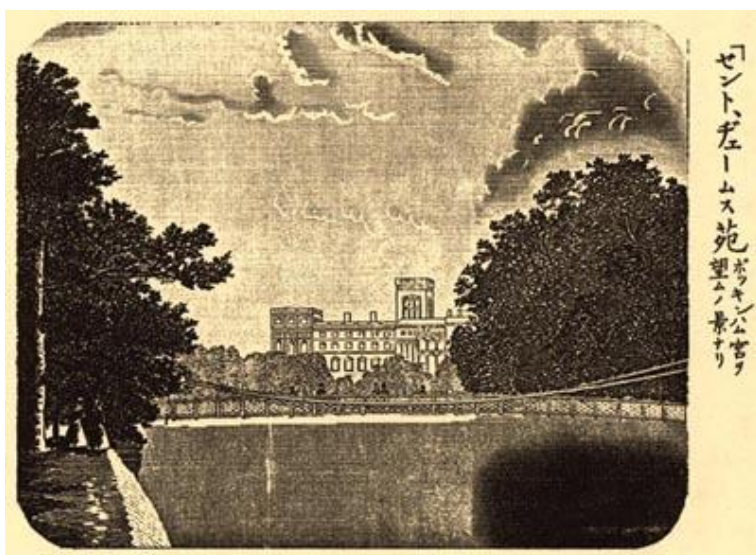
此博覽館ハ、一千八百五十六年ヨリ創立セル、常博覽會ナリ、最初千八百五十一年、「ハイ
ドパーク」ニテ万国博覽會ノトキ国人ニ感動ヲ生シ、英国ノ製作物ハ、技巧ノ練熟ハ、外国
ニ相競フヘシト雖トモ、形貌ノ拙劣ナルコトヲ發明シ、因テ其誘導鼓舞ノタメ、此場ヲ興サ
ント謀リ、当時博覽會事務局ノ積金ヲ本トシ、議院ヨリ其半額ヲ補助シ、此造営ニ取カヽレ
リ、地面ノ広サ十二「エーカー」(我四町八段許)、価六万磅ニテ政府ニ買上ケ、仮ニ鉄造ニ

テ宏大ノ館ヲ建テ、其費一万五千磅ヲ以テ創メ、其後モ耐久ヲ図リ、追追ト改築セルモアリ、今年ニ至ルマテ、列品物ヲ取入タル価ハ、二十八万磅ニ及ヘリ、其他寄納、及ヒ死後ノ遺納等夥多シ

「ボッキンハム」宮ノ正面



「セント、ジェームス」苑〈「ボッキンハム」宮ヲ望ムノ景ナリ〉



明治五年八月一日

八月朔日 陰

宮内省ヨリノ沙汰ニヨリ、「パークス」氏「アレキサントル」氏案内ニテ、「ボッキンハム」ノ王宮ヲ一覽ス、此宮ハ、「ジョールチ」第四世ノ代ヨリ起當シテ、今皇帝ノ代ニ落成ス、

前後左ニミナ広苑アリ、岡坡ノ高燥ナルナケレトモ、楼閣ノ上ヨリ眺望スレハ、眼界ノ景自ラ快ナリ、コノ結構ミナ白石ヲ以テナル、柱壁椽題ハ、彫刻ノ巧ヲ極メ、内景ニハ綺羅文繡ヲ張り、金色ハ燦爛トシテ、玉光ハ玲瓏タリ、房ヲ連ネテ珍宝器翫ヲカサル、蓄フ所ノ名画モ亦無数ナリ、其魏傑荘麗ナル人目ヲ眩耀ス、然トモ案内ノ人謂フ、仏国巴黎ノ「チュロリー」宮ニ比スレハ、其荘麗ヲ比較スル能ハスト、皇帝ノ粧室寢室ハ入ルヲ許サス、其在宮ノトキニ取乱セルマヽ、蘇格蘭ニ遊幸アリシヲ以テ、外人ノミルヲ欲セサルナリ

「ウエストミニステル」橋ノ巴力門



明治五年八月二日

晴

午後ヨリ「ウエストミニステル」ノ巴力門ニ至ル、巴力門ハ大英聯合王国ノ議政堂ナリ、

此堂ノ建築ハ、一千八百三十四年ニ焼失セシニヨリ、四十年ヨリ再造シ、全堂ノ積八「エーカー」(約我一万坪)、一千一百ノ寮局ヲ分ツ、其造構ハ、前後ニ高塔ヲ建ル、東ナルハ方塔ニテ、方八十尺、高サ三百四十尺、之ヲ「ヴィクトーリヤ」塔ト名ツク、西ナルハ方錐形ノ尖塔ニテ、以テ時辰鐘楼トス、幅四十尺、高サ三百二十尺、中ニ巨鐘ヲ鈎下シ、三面ニ指辰ノ盤、及ヒ針ヲ嵌ス、司天監ニテ製シタル器械ヲ施シ、常日ニ回轉シ、時至レハ鐘自ラ鳴ル、周壁ハ鏤刻ノ精ヲキハメ、内景室室ノ華麗ハ、尽ク目ヲ耀サハルナシ、上院ノ美ニ至テハ殊ニ其首ニオルモノナリ、此堂ノ造営ハ金二百五十万磅ヲ費セリ、

此内ニ議院、及ヒ大審院等アリ、官員室ヲ分ツ局ヲナス、国ノ典章格式、及ヒ古器珍宝ヲ蓄フ、時ヲ以テ陳攤シテ衆ニ縦觀ヲ許ス、平生ハ婦人ノ外、猥リニ入ルヲ許サス、官員ニ渡タル券札ヲ受ケテ、傍聴觀覽スルヲ得ル

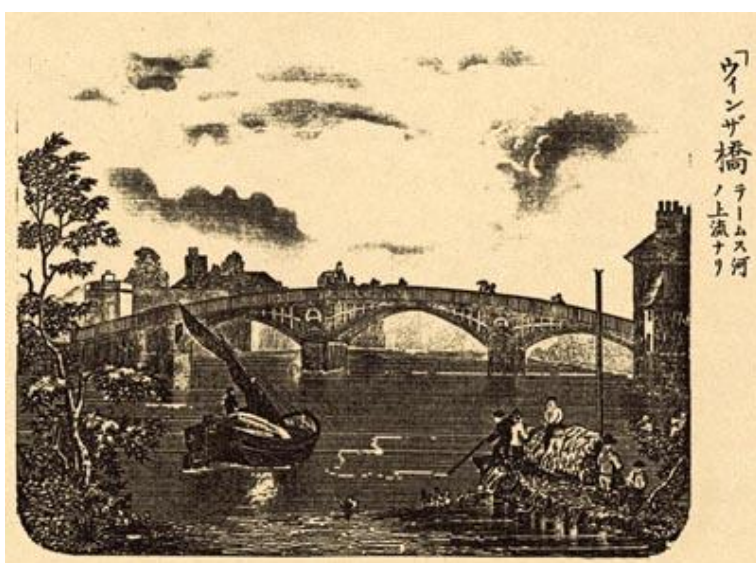
「ブラッキプレヤス」橋聖「ポール」寺



「ウィンザ」城



「ウィンザ」橋 〈「テームス」河ノ上流ナリ〉



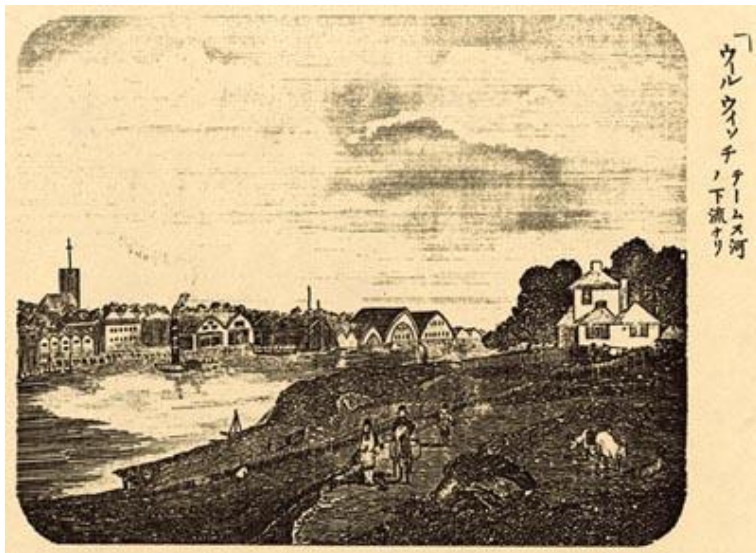
明治五年八月五日

晴

「ウイクトリヤ」駅ヨリ、蒸気車ニテ、達迷斯河ノ上流二十一英里ヲ走り、「ベルクス」州ノ「ウィンザカッソル」ニ至ル、此ハ皇帝ノ平日居住ノ宮ナリ、今ノ王家ノ祖、諾曼的維廉「コンケオル」王ノ代ニ、始テ築キ起セル古城ナリシヲ、顛理第一世、第二世ノ代ニ増築シテ、代代皇帝ノ居宮トナセリ、回廊ノ長サ五百尺、高櫓ノ円径二百尺ニ及フ、宮殿楼閣ハ是

ニ従フ、中ニハ綺羅ヲ尽シ、錦繡ヲ張り、珍宝ヲ室室ニ陳ネ、名画ヲ房房ニ掲ク、此地ハ平岡ヲ負ヒ、達迷斯河ノ上流幅三百尺許ニ流レ、園林ノ勝、鬱然爽然トシテ、其広サヲ極メ難シ、花園花窖アリ、菜畦蔬圃アリ、皇帝皇太子モ、亦親ラ栽培スル畦モアルトナリ、城中ニ武庫アリテ、戎器ヲ蔵ス

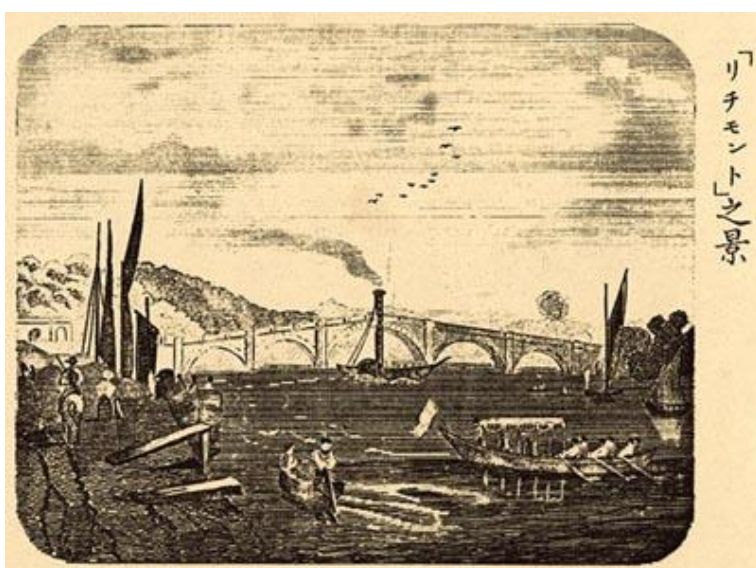
「ウールウィツチ」〈「テームス」河ノ下流ナリ〉



明治五年八月八日

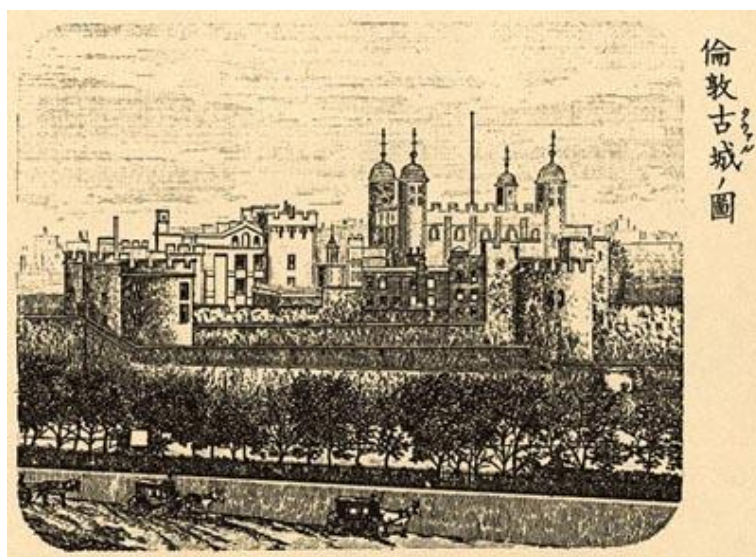
午前九時ニ、「アレキサンドル」氏案内ニテ、「ウェストミニストル」橋畔ヨリ、小火輪船ニ上リ〈此ニテ「パークス」氏モ会シ同行ス〉、達迷斯河ヲ下ル八英里ニテ、「ウールウィツチ」ニ至ル、此都邑ノ人口五万アリ、英国武器ヲ製造スル所ナリ

「リチモント」之景

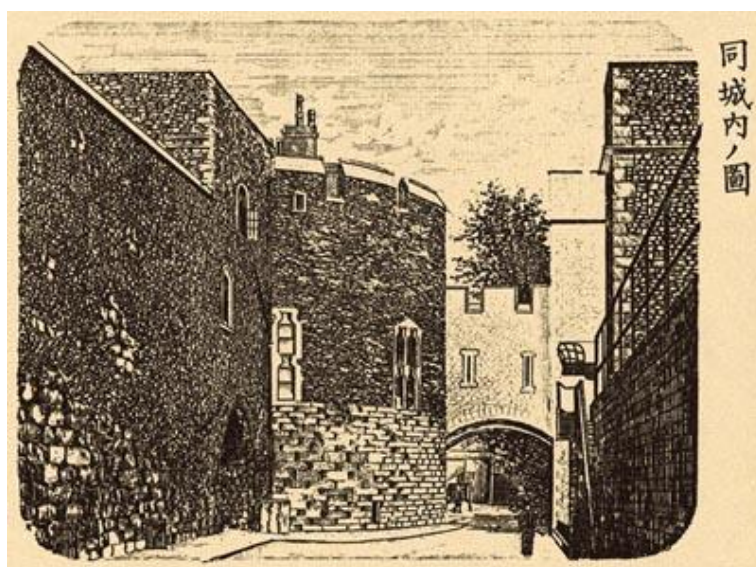


第二編 第二十五卷 ロンドン/倫敦

倫敦古城ノ図



同城内ノ図

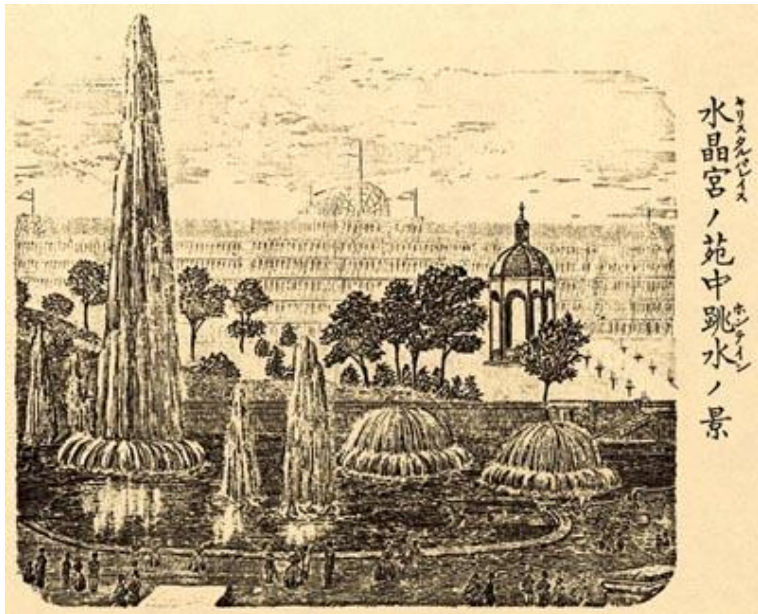


明治五年八月十六日

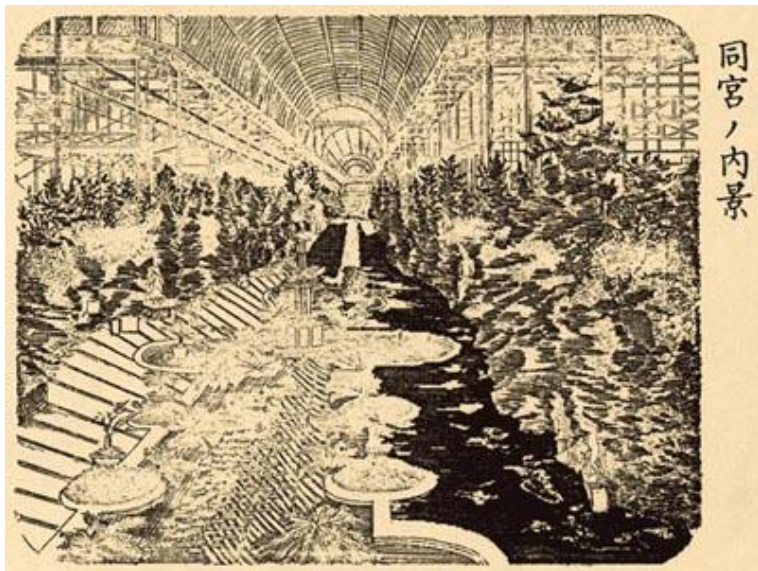
「タウアル、オフ、ロントン」、是ハ倫敦古城ナリ、諾曼家ノ祖、維廉「コンクオル」王ノ創築セル城ニテ、其後ニ代代ノ英王、此ニ居住シ、百般ノ古蹟アルコト、旧史ニ著シ、此城ハ運上所ト、倫敦「ドツク」トノ間ナル河岸ニアリ、地底丈余ノ底ニ、乾壕ヲ掘リテ、其中ニ築キ起ス、達迷斯河ニ沿ヒテ、所謂長馳道ナルモノアリ、周圍ハ樹木葱然タリ、門ニ入り進行スレハ、石垣牢固ニシテ、鉄関ヲ施ス、古色蒼然タリ、時ニ幽暗ノ処ヲスク、人ヲシテ意思竦然タラシム、

古時囚牢ノ跡アリ、昔時英王カ婦人ヲ斬戮セル跡アリ、城ニ入レハ、壁内ニ二王子ヲ殺シテ屍ヲ隠セシ所アリ、其他古来淫虐惨暴ヲ行ヒシ跡多ク、今ニシテ、其蹟ヲミテモ、猶人ノ毛髮ヲ立テシム

水晶宮ノ苑中跳水ノ景



同宮ノ内景



明治五年八月十七日

晴

午後三時ヨリ「パークス」氏、「アレキサンドル」氏ノ誘ヒニテ、蒸気車ニテ「サイヂンハム」ニ至リ、水晶宮ヲ回覧ス、

水晶宮ハ原名ヲ「キリスタル、パレイス」ト云、総玻璃ヲ以テ築キ成ス、是ハ元一千八百五十一年ニ、倫敦ノ「バイトパーク」ニ於テ、万国博覧会ヲ設ケシトキニ、彼地ニ建築シテ、出品ヲ陳列スルノ場トナセルヲ、会畢リテ後ニ、此ニ引移シ、美観ヲ存セルモノナリ、

全院悉ク鉄ヲ骨トシテ、満面玻璃ヲ以テ覆フ、風氣ヲ遮リテ、日光ヲ遮ラス、其長サ一千六百〇八尺（即百六十八間ナリ）ナリ、幅ハ凹凸一ナラス、上棟最モ高キ所ハ、百十尺、左右ノ端ニハ、各高サ二百四十尺（即十四間）ノ高塔ヲ建テ、前ニ広濶ナル庭苑ヲ開キ、地形数層ニシテ上ル、岡丘ノ頂ニアリ、遙ニ近傍六郡ノ野ヲミル、院中ニハ珍ヲ列ネ奇ヲ飾リ、院外ニハ樹緑リニ草芳ハシク、明沙清池、終日盤桓スルモ、其一般ヲ概スルニ難シ、此ニ其略ヲ記セン

里味陂府庁

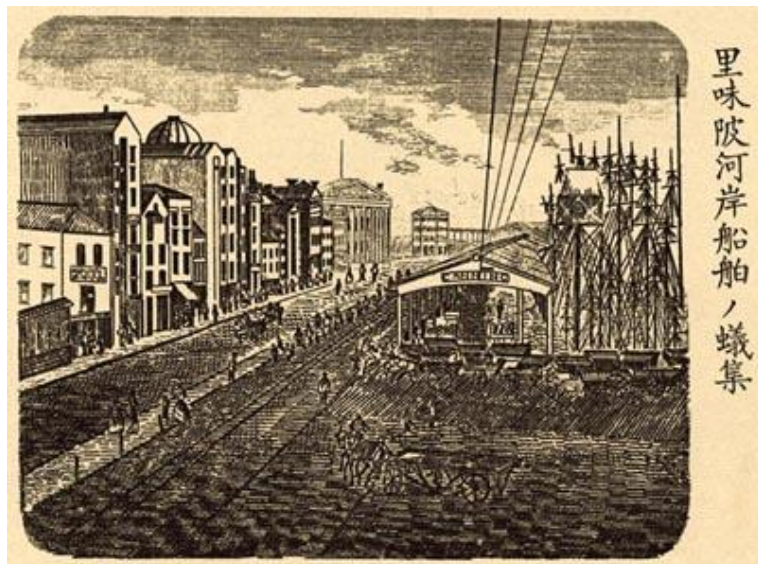


明治五年八月二十八日

二十八日 陰雲濛濛トシテ小雨フル

午後一時三十分ニ、馬車ニテ「タウンホール」ニ赴ク（「タウンホール」ハ府ノ首府ナリ）、知事迎ヘテ集会堂ニ延キ、府中ノ官員ミナ席ニ集リテ、互ニ「スピーチ」ヲ取代ハス、府庁ノ中ニハ正面ニ知事着席シ、之ニ向ヒテ議員ノ面々、列席ノ榻ヲ数行並ヘ、兼テ会議ノトキモ、人人立テ「スピーチ」ノ如ク、所見ヲ陳ス、是西洋一般議事ノ作法ナリ、演舌ノ儀了リテ、庁内ノ室室ヲ見回り、暫時ヲ移シテ去ル

里味陂河岸船舶ノ蟻集



明治五年八月二十七日

里味陂府ハ英国蘭加斯達州、南方ニアル要港ニシテ、英国ニテ第二ノ都会ナリ、北緯五十三度二十四分ヨリ二十八分マテ、西経二度五十九分ヨリ三度四分マテノ地ニ位ス、一千八百年ノ比マテハ、人口八万二千ニスキサル都府ナリシニ、同十五年米国ト媾和セルヨリ繁昌ヲス、五十年ニハ三十七万六千口、七十一年ニハ五十万三千八百七十四人ニ及ヘリ、美爾索河ニヨリ、地勢平坦ニテ、河口ハ浅洲多シ、久ク以テ亜米利加ヘ往来ノ港トス、「キユナールト」「インメン」「ホワイトスタール」「ネシヨナルフィン」等ノ蒸気船会社アリテ、当港ヨリ新約克〈合衆国〉加那他〈英領米利堅〉等ヘ出船ス、平均毎日ニ、新約克ヘノ出船三十四艘、波士敦ヘ八艘、外二十一艘ハ其他ノ港ヘ出ツ、スヘテ五十三艘ツ、日日連綿トシテ、圧瀾洋ニ出テ、西ニ向ヒ航スルトナリ、

亜米利加ノ繁昌スルニ従ヒ、当港モ益昌シ、港口ニ船廠ヲ造リテ、北岸六英里ノ長サニ連リ、海ニ向ヒタル所ハ、城垣ニ塞関ヲ開キシ如ク、石垣ヲ疊ミテ、内ニ縦横ノ船廠ヲ掘タルハ、城濠ヨリモ堅牢ナリ、出入ノ船舶、ミナ此ニ入り碇泊ス、木樁ハ灌木ノ叢立セルニ似テ、其綱条ハ漁村ノ網ヲ曝セルニ彷彿タリ、其盛ナル世界第一ナリト称ス

里味陂船廠ノ水門及ヒ穀物倉



同船廠内ノ繁栄



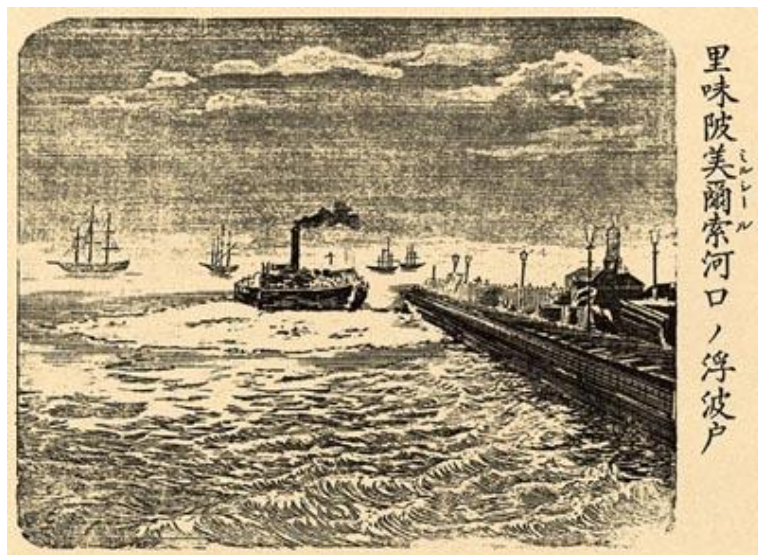
明治五年八月十九日

十九日 西曆十月一日 陰リ

朝十一時ヨリ駕シテ、船廠ヲ見回ル、途中ヨリ船中ヨリ船廠ノ内マデ、市中ノ男女、群リテ見物ス、府庁ノ注意ニテ、巡查ヲ排布シ、路上ヲ警衛ナシテ、混雜ヲ取鎮メ、一行ノ車通行ノ節ニハ、手ヲアケ敬礼式ヲナス、見物ノ群集、往来ノ諸人モ、亦帽ヲトリー礼ヲナシテ過ル、規式嚴肅ナリ、始メテ立君国ノ威儀ヲミル、抑当港ノ船廠ハ、六英里ノ長サニ連リテ、

境内広潤ニ、市街ニ向フ所ニハ、高サ七尺ハカリナル、磚瓦ノ塀ヲ、直線ニ築キ、処処ニ門戸ヲヒラキタリ、門ニ入レハ、塀内ニモ一条ノ通街アリ、中央ニ鍔道ヲシキ、街車往来ノ便ヲナセリ、ソレヨリ内ニハ、荷ヲ積ム、廨舎、物ヲ蓄フルノ倉庫等ヲ建並ヘ、又広キ荷物水揚ノ場所モアリ、固ヨリ広キ境内ナレハ、一日ノ見テ尽ストコロニ非ス

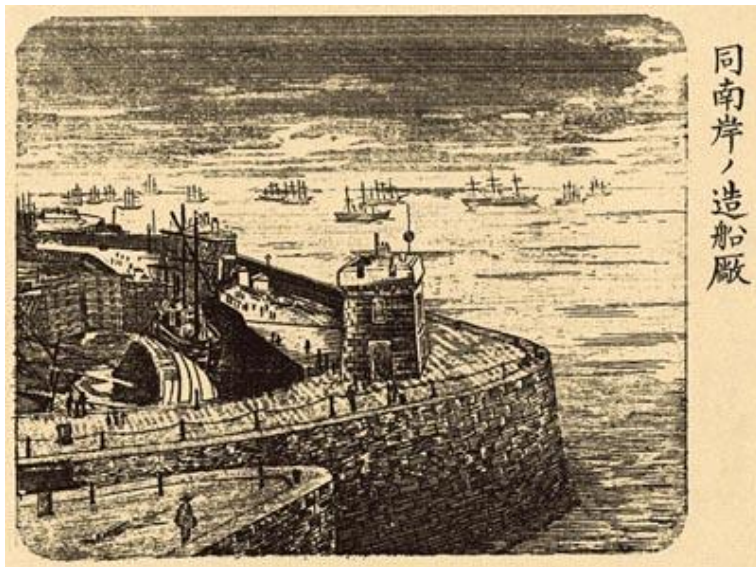
里味陂美爾索河口ノ浮波戸



明治五年八月三十日

夫ヨリ浮波戸ニ至リ船ニ上ル、沿途ニ巡查ノ警衛、昨日ノ如シ、船ニ上ルトキ、岸上ニテ楽隊ヲ奏スルコト一曲、是ヨリ岸ヲ離レテ西ニ下ル、美爾素川ヲ下ルニ英里、港口ニ備ヘタル砲台ノ前ニ至ル、右岸「トック」ノ砲台ヨリ、十七発ノ祝砲アリ、夫ヨリ船ヲ回シテ、河ヲ溯リ、里味陂ノ東角ニ至レハ、此辺ニ川浚ヘ船アリ

同南岸ノ造船廠



明治五年八月三十日

第二ニ美爾素川ノ南岸ナル、「ベーケンヘッド」ニ至リ上陸ス、此ニハ「タライ、トック」ヲ設ケ大造船場アリ、上陸ノ岸ニ三ケノ「ダライトック」アリ、其二ハ新船ヲ打立テ、一ハ修復ヲナシ居タリ、新造ノ船ハ、ミナ鑄製ノ蒸氣郵船ニテ、一船ハ七分ノ成就、一船ハ骨組ヲ僅ニ打立タルノミ、其長サ六十間、艫ノ処十分ノ二ハ、「ドック」狭クシテ容レ難キユエ、猶欠ケタリ、此兩船トモニ、太平海ニ浮メテ郵船トナス目的ナリ、其一ノ修復船モ郵船ニテ、船形ノ短キユヘ、此場ニ於テ、中央ヨリ截断シテ、新ニ長サ二丈余ヲ作り添エ、適宜ノ船形ニ改良セルナリ、其接続ノ所ヲ、外面ヨリミレハ、鉄ノ新陳猶判然トシテ知ルヘシ、後船ニ入テ、内景ヲミレハ、固ヨリ設ケタルモノ、如シ、成就ノ後ハ殆ト辨スヘカラサルヘシ

里味陂ノ北「エストロン」汽車駅



明治五年八月二十七日

英国ハ、北緯五十度ノ北ニアリテ、秋冬ノ際ハ、日影甚タ短シ、此日ハ秋分ヲサル七日ノミ、而テ五時二十分ニ日ハ歿シ、六時ニハ星ヲミル、夜十時半ニ里味陂府ニ達シ、「ノースヴェエストロン」駅ニ上リ、駅口ノ「ノース、ウエストロン、ホテル」ニ宿ス

同聖「ジョージ」礼拝堂

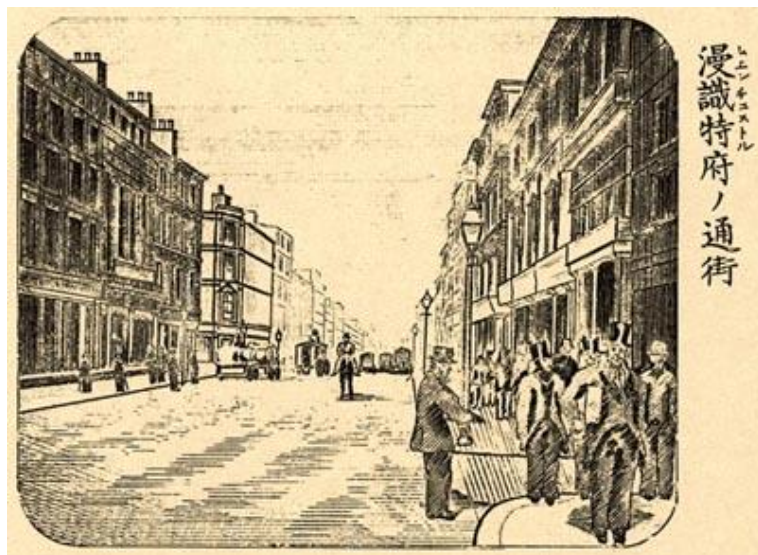


明治五年九月一日

九月朔 雨降午後晴

午前十時五十分、旅館前ナル、「セントジョージ」礼拝堂ニ至ル、旅館ヨリ堂前迄巡查ニテ路ヲ固メ、一行ノ外、市中ノ男女百余名、共ニ教堂ニ入り、外戸ヲ鎖シ、調楽ヲキケリ、此教堂ハ石造ニテ、屋宇甚タ高朗ナリ、四壁四柱ミナ精密ノ彫刻アリ、府中ニテ指ヲ屈スル大建築ナリ、正面ニ大楽器ヲ仕掛ケ、三面ニ回廊アリ、中堂ヲ合セテ千人ヲイレテ余裕アリ、此日ハ楽器ノ機関ヲ押ヘテ、楽ヲ調スルコト二曲、一樂師ノ手ニテ調スル所、殷殷トシテ大音律ヲ発シテ堂ニ充ツ

漫識特府ノ通街



明治五年九月二日

漫識特府モ、亦「ランカシャ」州ノ一大府ニテ、北緯五十三度二十分、西経二度十六分ニ位シ、一千八百年ニ、已ニ九万五千口ノ都会ナリシカ、木棉紡織ノ繁昌ト、米^米国貿易ノ盛大ニナルニ從ヒ、同五十年ニハ四十万口ノ都会ヲナシ、同七十一年ニハ四十八万〇四百七十人〈「メンチェストル」三十五万五千六百六十五人、「サルボール」十二万四千八百〇五人ヲ併セタル数〉ニ及ヒ、英国ニテ第三ノ都会タリ、里味^リ陂^ヒ府^フ美^ミ索^ソ爾^ニ河^カノ上流ニヨリ、運河ヲ開キ、漕舟互ニ運送スヘシ、四郊ミナ平野ニテ、河水ハ汚濁ナリ、之ニ加フルニ多霧多雨ヲ以テス、秋冬ノ間ハ日光ヲミルコト少シ、此府ニ製造所多ク、殊ニ木棉ノ紡織ハ、其盛ナルコト、歐洲ニ於テ別ニ比肩スル所ナシ、蒸氣ノカヲ借テ機ヲ運ス、全府石炭ノ烟、天ヲ掩ヒテ空氣為メニ昏黒ナリ、八九年前ニ、米利堅合衆国、南北戦争アリシトキ、彼国ヨリ棉花ヲ仕入ルハ口塞リケレハ、満市ノ製造場ニ、廢業ノ者多ク、職人男女糊口ノ途ヲ失ヒ、餓死ニ浜スルニ至ル、商会ヨリ東西印度ニ手ヲ配リ、棉花ヲ購ヒ、此頃ハ世界ノ棉花、為メニ価ヲ増加シ、此府中ノ困難ハ、日本ニテ連年ノ大飢饉トモ謂ホドノ景況ニテ、府庁ヨリハ三千万磅ノ金ヲ集メテ、之ヲ救済セリトナリ、米^米国廢奴ノ論ハ、棉花ノ關係ニヨリ、米英共ニ異論多カリシ所以モ亦察スベシ

同牢獄ノ内景

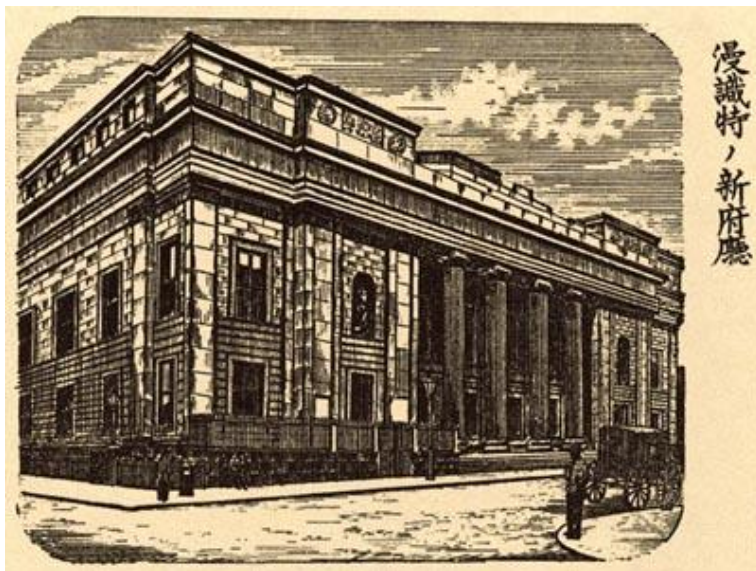


明治五年九月三日

夫ヨリ牢獄ニ至ル、此牢獄ハ、裁判所ノ近所ニアレトモ、別ニ一区ノ広域ヲ占メ、外圍ヒハ磚瓦ヲ以テ、高サ約二丈余ノ牆ヲ築キ、大樓門アリ、扇闔甚タ嚴重ナリ、出入ハ小戸ヲ其戸面ニ設ケ、是ヨリ纔ニ二人出入スヘシ、牆頭ニハ巨釘長三四寸ナルヲ植ユ、門内ニハ囚獄掛ノ諸官房アリ、此所ニ至高ノ大煙突ヲ起ス、二百余尺ノ高サニ及ヒ、雲表ニ聳エタリ、是ハ其中腔ヲ兩重ニシ、内腔ヨリハ、烟煤ヲ送り出シ、外腔ヨリハ、風氣ヲ送り出シ、獄中ノ腐敗氣ヲ清滌シ、新鮮ノ氣ト交代セシメル設ケナリ、

獄屋ハ六棟ノ屋ヲ合轄セシムルコト、米國費拉特費府ノ牢獄ニ同シ、蓋シ彼府ノ造構ヲ摸倣セルモノニテ、彼ハ石造、此ハ煉火石造ナリ、彼ハ二層、此ハ四層ノ異アルノミ、每層ニ牢番一人ツヽヲオク、スヘテ一室、其合轄ノ所ヲ牢番人ノ休所トス、女牢ハ別ニアリ、其造構ミナ男牢ト同シ

漫識特ノ新府庁

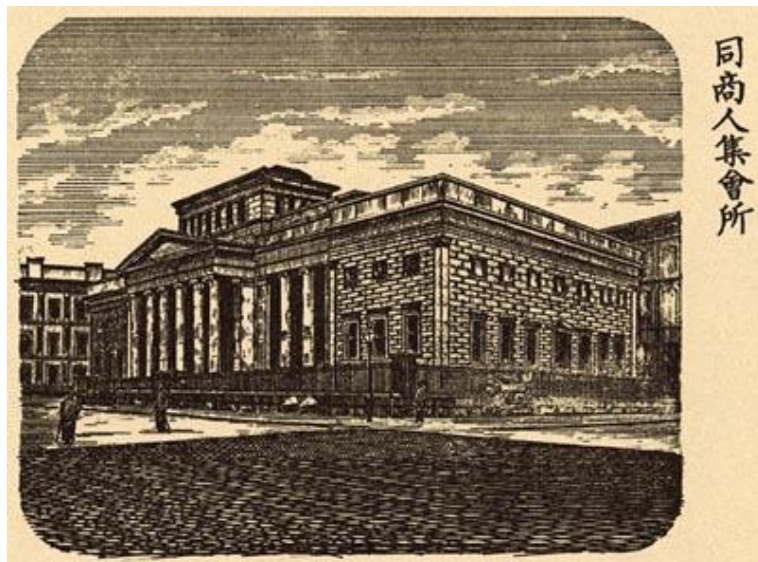


明治五年九月五日

夕四時知事ヨリ、府庁ニ於テ招宴ヲ開ク、会食百数十人、「スピーチ」等例ノ如シ、

八時ヨリ芝居ニ赴ク、使節ノ為メ、別段ノ演劇ニテ、赤白ノ絹ニ、番附ヲ印刷シテ、一統ニ配付シ、場内ニ両国ノ国旗ヲ交叉シ、其設ケ甚タ盛ナリ

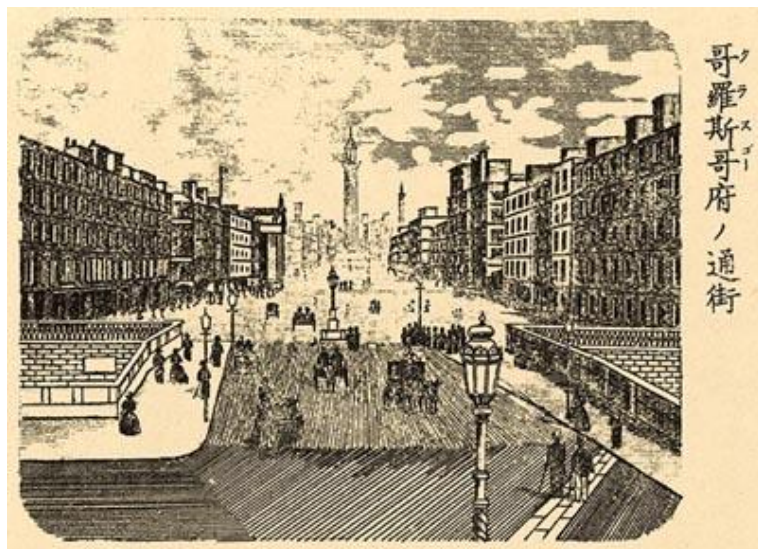
同商人集会所



明治五年九月六日

夫ヨリ「ロヤル、エキステンヂ」ニ至ル、屋宇甚壮大ナリ、スヘテ「ロヤル、エキステンヂ」ノ建築ハ、欧米各都ニテ、一定ノ形式アルモノ、如シ、其造構タル、層屋ヲ造ラス、高朗ナル広堂ヲ設ケ、市民集会スル、幾千人ニ及フトモ、妨ケ無ラシメ、左右ニ回楼アリ、正面ニ高壇アリ、当府ノ「エキステンヂ」ハ、尽ク新建ニテ美麗ナリ、一周日ニ三度ツ、開場ヲナシテ、貿易品、諸株証券ノ価ヲ入札ス、市中商売取組ヲ決スル所ナレハ、其相場ヲキ、色ヲ失ヒ帰ルモアリ、喜ヒ面ニ溢レテ去ルモアリ、場ノ近傍ノ、人心匆匆トシテ、往来忙シキコト、他ノ街路ニ異ナリ、本日ハ使節ノ来ルヘキコト知レタル故ニ、殊ノ外群集ニテ、堂外ヨリ已ニ混雑ノ状アリシニ、上堂スレハ、内景ノ濶サ三十五間ニ、二十四五間モアルヘシ、堂中ニ商人群立シ、満堂人顧ヲ以テ塞キ、立錐ノ地ナシ、知事、商長、其他ノ案内ノ人、其雑沓中ヲ押排キ、辛クシテ使節一統ヲ高壇ノ処ニ至ルヲ得セシメ、此ニ上リ、衆ニ向ヒ一礼ヲナセシニ、前ナルハ帽ヲ執テ祝声ヲ揚レハ、後ナルモノハ押シ進ミ、堂上ニ稠人波ヲタテ、静カナラサリケリ、儀了リテ両側ノ回楼ヲ回覧シ出テ去レリ

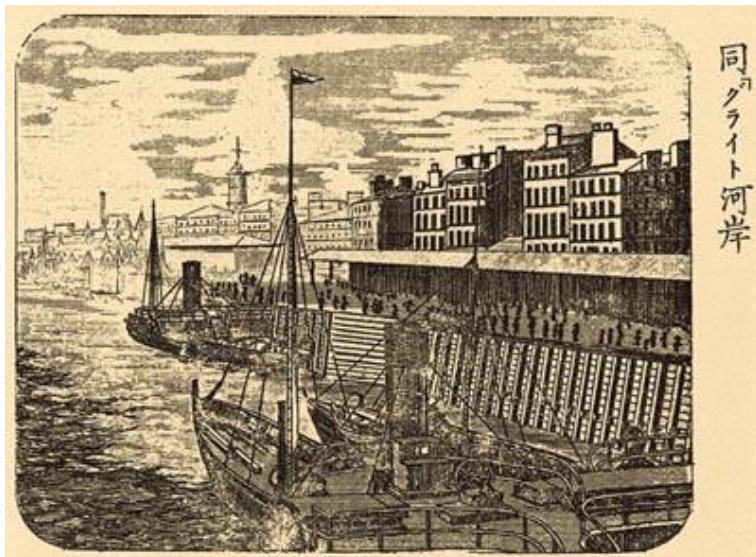
哥羅斯哥府ノ通街



明治五年九月八日

哥羅斯哥府ハ、蘇格蘭西南部「ラナーク」州ノ都会ナリ、此州ハ蘇部中ニテ、尤モ繁昌ノ地方ナリ、幅員僅ニ千方英里ニモ充サレトモ、人口ハ七十六万ニスク、此哥羅斯哥ハ、蘇部第一ノ大都会ニテ、東海ノ湾ニ於テ「グライド」河ノ上流ニ控ヘ、貿易製造ノ盛ナルコト、世界ニ高名ナリ、殊ニ亜米利加諸国トノ貿易甚タ盛ナルヲ以テ、棉布ノ製作ニ高名ナルコト漫識特府ニ亜ス、又製鋳場、造船場モ盛ナリ、此府ハ一千八百年マテハ、七万六千口ニミタサル都府ナリシニ、亜米利加交易ノ開ケト、汽船、汽車ノ便利ニヨリ、近五十年間ニ、駸駸トシテ隆盛ヲナシ、其繁昌ノ原由ハ、固リ米國ノ貿易ニ管渉スルノミナラス、又東洋トノ交易場ナレハ、日本ノ貿易ニ於テ、此ト里味陂トハ、殊ニ肝要ノ地ナリ、其地ハ北緯五十五度五十二分、西經四度二十三分ニ位シ、人口四十七万七千四百四十四人アリ、英国中ニテ第三ノ都会タリ、「グライド」河ノ兩岸ニヨリテ起ル、河南ノ地方ハ、岡陵起伏シテ、街路坦平ナラス、河岸ノ平地ニ於テ、市廛繁華ナリ、河ニ架シタル橋五アリ、ミナ石橋ニテ、其造営ノ巧、各形式ヲ異ニス、河北ノ市街ハ、建築美ナラス、製造所多シ、府ノ周圍ハ、ミナ製造所ニテ、夜中ニ此府ヲ望メハ、所所ノ烟突ヨリ、炎火ヲ噴キ、赫赫天ヲ焦シ、殆ト火災アルカト疑愕セシム、此地ノ木棉紡織ハ、甚タ高名ナレトモ、已ニ漫識特府ニテ、其模様ヲ詳悉シタルヲ以テ、回覽ヲ省キタリ

同「グライト」河岸

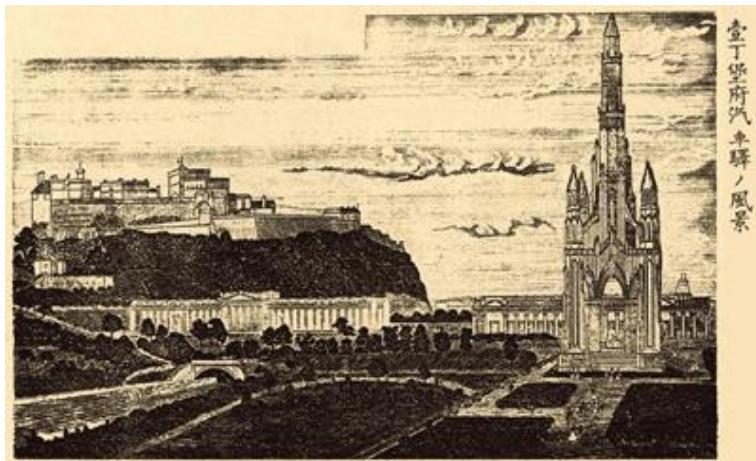


明治五年九月九日

晴

十時半ヨリ、又「ビショップ」駅ヨリ、汽車ニ乗リテ、「グリノック」府ニ至ル、此ハ哥羅斯哥府ヨリ、二十英里ヲ離レタル下流ニアリ、「グライト」河ハ、海湾ヲナシ、大船上リ来ル、人口五万七千百三十八人アリ、英国ニテ第三十三ノ都会ナリ、「プロヴォースト」〈蘇地ハ「メヨ」ヲ「プロヴォースト」ト云、仏国ハ「フンペー」ト云、皆知事ノ謂ナリ〉「シヴィイル」氏、「コンメルス、ペイリー、ケヤート」氏、評議官〈カウンスル〉「ハートル」氏等、駅舎ニ出迎フ

壹丁堡府汽車駅ノ風景



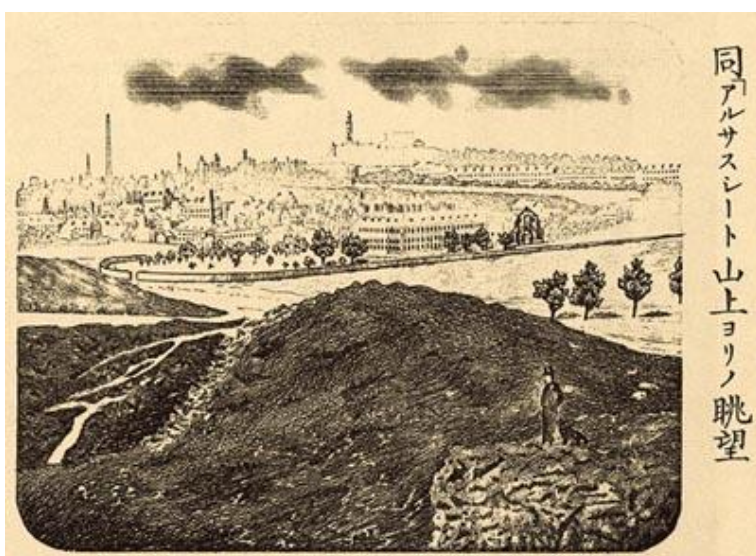
明治五年九月十日

壹丁堡府ハ、元蘇格蘭ノ王国ニテアリシトキノ王京ナリ、英蘇合併ノ後ハ、以テ別京トナセリ、其地ハ北緯五十五度二十四分二十四秒、西経三度零十一秒ニ位ス、倫敦ヲ距コト三百九十九英里、人口ハ一千八百年マテハ八万口ニスキサリシニ、七十一年ニハ十九万六千五百人ニ及フ、英国ニ於テ第九ノ都会ナリ、当府ハ両山ノ峽ニヨリ、城壁ハ岩嶂ノ上ニ兀立ス、只一条ノ路アリテ往クヘキノミ、其他ノ峰峰、ミナ奇骨ヲ露シ、錯落トシテ谷ヲ抱キ突起シ、市廛ハ其間ニ喧塞ス、諸寺ノ塔尖ハ、参差トシテ天ヲ刺シ、石屋聖房ノ皓然タル、地ノ起伏ニ従ヒ、山色ニ掩映シ、汽車駅ハ谷底ニアリ、其南坡ニ広苑ヲ存シ、蘇格風ノ高塔ヲ聳カス、是ハ倫敦「ハイトパーク」ノ博覧会跡ニ、「アルベルト」侯ノ記念塔ヲ建ルトキ、試ミ作りナリ、結構甚タ宜ク、反テ彼苑ニ建タル塔ニ勝ル、「ロヤルホテル」ハ其正面ニアリ、向崖ノ地ハ高岡ニテ、此ヲ壹丁堡ノ旧市街トス、街路モ狭隘ニテ、家屋櫛比ス、南坡ノ新街ハ、甚タ宏恢ニテ、山坡ノ間ヲ迂回シ、凹凸トモニ車ヲ碍ラス、飛橋ハ谿ヲ越ヘ、鉄路ハ谷ヲ走ル、山巒秀美ニシテ、風景画ノ如シ、此都ハ英国ノ諸都府中ニ於テ、清浄ノ景地ナレハ、盛夏ノ候ニハ、国王ノ避暑宮トナス、国人之ヲ希臘ノ雅典ニ比ス、一ニ新雅典トモ云

壹丁堡ノ古城



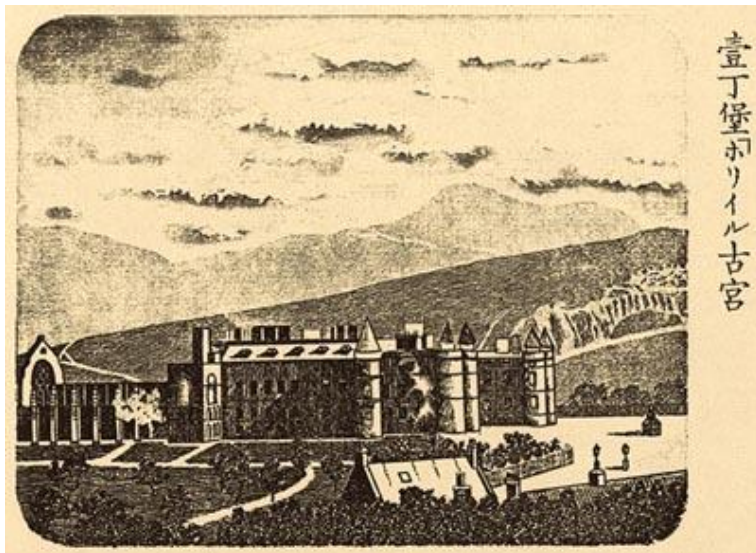
同「アルサスシート」山上ヨリノ眺望



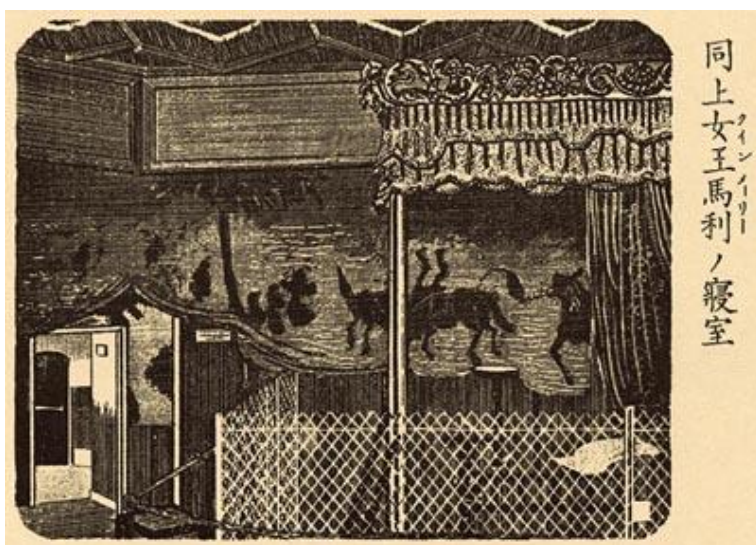
明治五年九月十二日

是ヨリ車ヲ山間ニ駆テ、「アーサス、シート」山ノ麓ニ至リ、車ヲステ、山頂ニ上ル、此山ハ高名ナル勝地ニテ、古代ヨリ種種ノ歴史モアリ、且此頂ヨリ府中ヲ一覽シ、兼テ海上ヲモ望ム、景地ナリ、高サハ地ヲ抜クコト八百尺、満山樹ナク、細艸ヲ生ス

壹丁堡「ホリイル」古宮



同上女王馬利ノ寢室

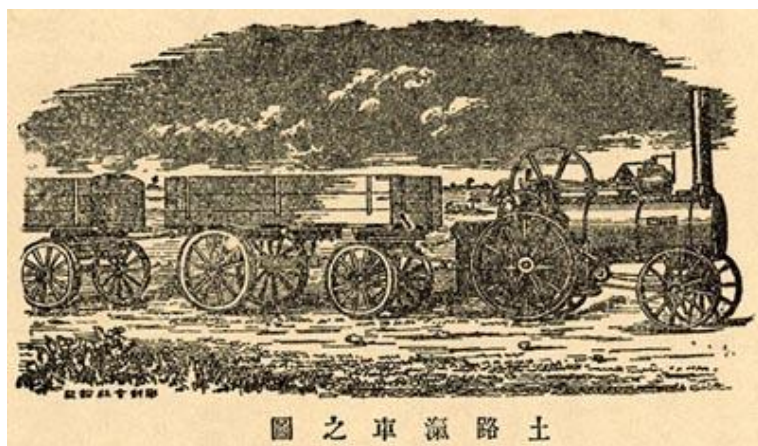


明治五年九月十二日

山ヲ下リ「ホリールト、パレイス」ト云、王宮ニ至ル、是即チ蘇格蘭ノ故王宮ニテ、五百年以前ノ建築ナリ、其内ニハ更ニ旧キ堂壁モアリ、「キングスイト」ニハ、歴代蘇格蘭ノ王、惹迷斯第六世〈即チ英王「ジェームス」第一ナリ〉ニ至ルマテノ、画像ヲ掛ケタル広室ナリ、夫ヨリ蘇王ノ寢室ヲ回ル、房具依然トシテ旧ノ如クニ存ス、一千五百四十二年ニ即位セル、蘇ノ女王馬利ノ寢室アリ、馬利ハ英ノ女王以利沙伯ト位ヲ争ヒ、仏国太子「フ

ランセス」ニ婚シ、英、蘇、仏ノ三国ニ、併セ王タラントセシ婦人ナリ、其寢室ノ壁ヨリ、間道ヲ造リテ下層ニ達ス、寢牀ノ傍ニハ、針箱、粧具ナト旧ノ如ク陳列ス、此后ハ絶代ノ美人ニテ、淫乱ノ行甚シク、始メ仏国ニ嫁シ、「フランセス」仏国ノ王位ヲ踐ミ、間モナク歿シ、仏人ヨリ逐ハレ、蘇ニ歸リ「ダヒット、リシオ」ヲ夫トシタリシカ、又之ヲ厭ヒ、奸夫ヲシテ暗殺セシメ、此間道ヨリ其奸夫ヲ引テ私通シタリ、其穢行ハ史伝ニ著シ、国内ニ激党起リ、奸夫ヲ宮中ニテ刺殺シ、其屍ヲ斃セシ室ハ、寢室ノ近傍ニアリ、板面ニ血痕ナホ模糊トシテ存ス、其後馬利モ、蘇人ヨリ逐ハレ、流離困難ヲ極メ、又英ノ大臣ノ「ウボート」ヂェークニ私通シ、種種ノ禍階トナリシ人ナリ、馬利ノ嗣王ヲ、惹迷斯第六世トス、終ニ英蘇ヲ兼テ王トナレリ

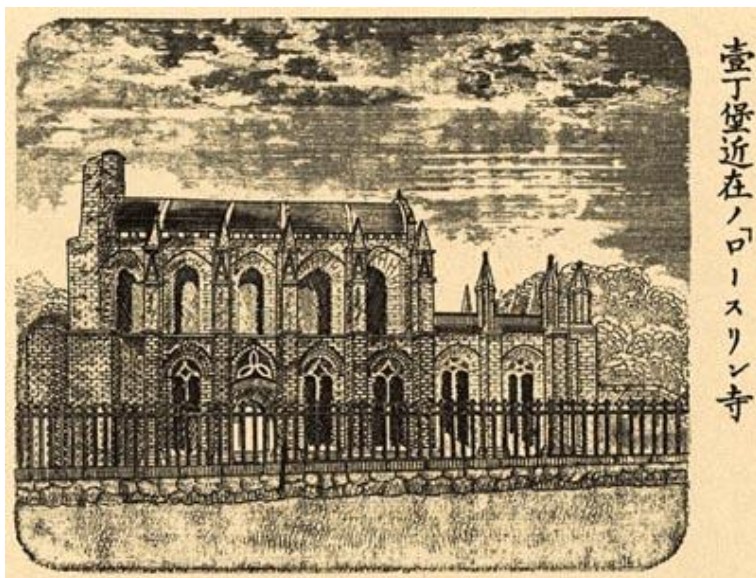
土路汽車之図



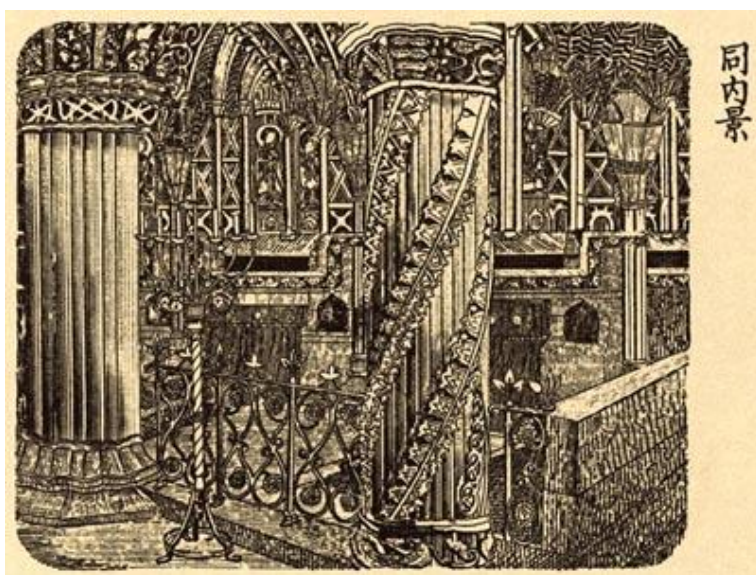
明治五年九月十二日

午後三時ヨリ、再ヒ駕シテ「ドラクシヨン、エンチン」ノ製造場ニ至ル、是ハ近年「トームソン」氏ノ發明ニテ、鑢軌ナキ土路ヲ曳キ走ル蒸気車ナリ、土路汽車ト訳ス、此車ハ三年前ヨリ製造ヲハシメ、其目的ハ印度、及ヒ豪斯多辣利ニ送り、鑢道ナキ原野ニ用ヒルニアリ、頃来又支那ニモ輸送シテ、北京辺ニテ運用ヲ試ミタリト云

壹丁堡近在ノ「ロースリン」寺



同内景



明治五年九月十三日

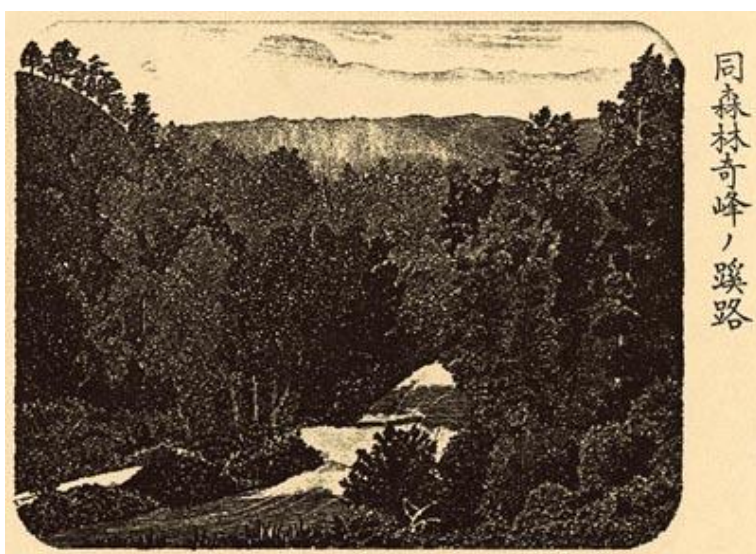
帰路ニ一ノ古寺ニ至ル、一千四百四十六年ニ、勞爾徳「ロストン」氏ノ建立セル寺ナリ、寺ハ甚タ壮大ナラサレトモ、建築ニ精工ヲ尽セリ、堂ノ正面ニ、白大理石ヲ以テ、満面彫刻ヲ施セル、柱一対アリ、此柱ヲ彫刻セシ石工、柱ヲ成就シテ建ントセシニ、其術ヲ知ラス、以太利国ニ赴キ、其法ヲ学ヒタリ、主人ノ留守ニ、家僕日日柱ヲ熟視シ、工夫ヲ回シ、遂ニ其法ヲ考へ出シ、寺主ニ乞フテ建タリケリ、主人年ヲ経テ、以太利ヨリ伝授シ帰

リシニ、ハヤ堂ハ建チタルヲミテ、大ニ驚キ、其故ヲ聞キ、僕ノ匠心ヲ妬ミテ、之ヲ殺セ
リト、カハル因縁アルヲ以テ、此寺ノ名ハ世ニ音高シ

蘇格ノ高蘭「トロサキツ」湖山



同森林奇峰ノ蹊路

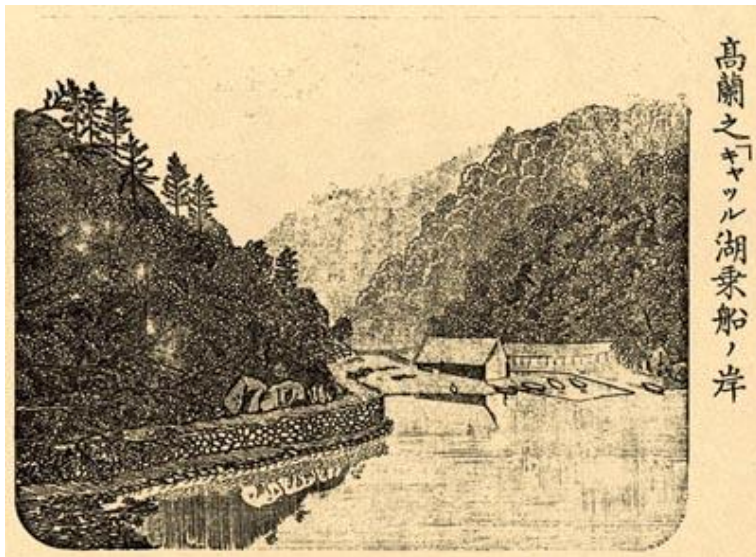


明治五年九月十七日

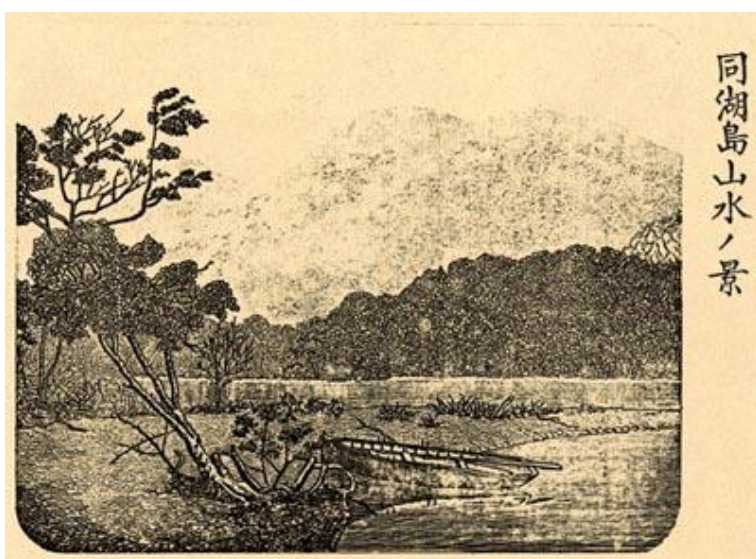
「トロサキツ」湖ハ、甚タ小ニシテ、一泓ノ地ニ齊シ、中ニ一小嶼ヲアラハシ、前ニ奇峰ヲ峻立ス、側ニ湖面ヲ鑑ミル、嶼上ニハ秋樹疎疎、ミナ黄葉ヲナシ岸上ノ林葉ト、互ニ相掩映ス、夕ナラスシテ、落照ノ景ヲナス、湖前ニ一宇ノ大屋アリ、造営奇麗ナリ、「トロサキツ、ホテル」ト云、此ニ入りテ朝食ス、数月前ニ南亜米利加ノ伯爾西王モ、亦英蘇ノ地ヲ周歴シテ、此ニ投宿セリキ、旅館ノ主人、兄弟二人、喜テ客ヲ遇ス、既ニ伯爾西王ヲ

迎へテ、此湖山ヲ案内セシニ、今又日本ノ大使節至ルヲ喜ヒ、路ニハ馬車ヲ用意シ、湖ニハ汽船ヲ艤シ、且主人兄弟、先導セント請フ、此「ホテル」ニ朝食ヲ畢リテ、馬車ニ上リ、主人兄弟ト、亦車ヲ同クセリ、前ニ一車ヲシテ、「パーフハーフ」ト云、蘇地ノ楽器ヲ吹テ先行ス、「パーフハーフ」ハ、両管ノ笛ヲ以テ、喇叭ノ如ク、豎テ、吹ク器ナリ、其声瀏亮トシテ、清雅ノ音アリ、已ニ「ドロサキツ」ヲ出レハ、一路又黄葉ノ林ニ入り、日光陰映シ、瀏亮ノ声、車ヲ導キテ林間ヲ走ル、恍トシテ仙界ヲ渡ルカ如シ、林樹甚タ密ナラス鬱ナラス、車上ヨリ左眇スレハ、一峰ノ石ヲ負テ其上ニ露レルヲミル、湖光水声ノ奇ナシト雖トモ、其奇絶ノ勝ハ、画ニモ描キ難キ勝地ナリ

高蘭之「キャツル」湖乗船ノ岸



同湖島山水ノ景



明治五年九月十七日

此日天ハ清ク晴レ、日色朗カニ、四モニ風声ナク、静ニ廃葉ノ枝ヲ辞スルヲ聞ク、蘇地ノ山水、愈出テ愈奇ナルヲ覚フナリ、黄林尽テ、一ノ渡頭アリ、傾仄ノ山崖ヲ負テ、長キ茅舎ヲ構ヘ、不削ノ木ヲ以テ柱トシ、欄トシ、甚タ古雅ナリ、是ヨリ長廊ヲ造リテ、湖ニ接シ、汽船へ上ラシム、船ニ上レハ、即チ輪じんヲ脱ス、前ニ一島アリ、左右後ハミナ山巒重重シ、峰峰ミナ奇ヲ呈シ、峻ヲ競ヒテ、其状一トシ怪奇ナラサルナシ、湖浜山麓ミナ秋

葉ノ林ニテ、島上ノ樹葉ト相照シ、湖面為ニ黄ナリ、時ニ微風起リ、水ニ激艶ノ波ヲタハミ、日光惨淡トシテ、奇峰ノ上ニ、倒ニ光ヲ送レハ、峰峰ミナ薄烟ヲ曳キテ、縹紗ノ致ヲソユ、左顧右眄、応接ニ違アラス、船ハ秋葉ノ映射中ニアリテ行ク、満船ノ日色為ニ黄ナリ、此行ノ奇ハ此ニ至リテ絶勝ヲ極ム、船已ニ島ヲ回り出レハ、湖光澹澹トシテ、奇峰ノ間ニアリ、景勝又改ル、之ヲ「キャッツル」湖ト云、湖水甚タ清シ、四圍ノ峰巒、ミナ嵐氣ヲ帯ヒ、奇状変幻、一一ニ名状ヲナシ難シ、湖ヲ航シ将ニ尽ントスル処ノ岸ニ、哥羅斯哥上水樋ロアリ、船ヲ著ケテ之ニ上ル

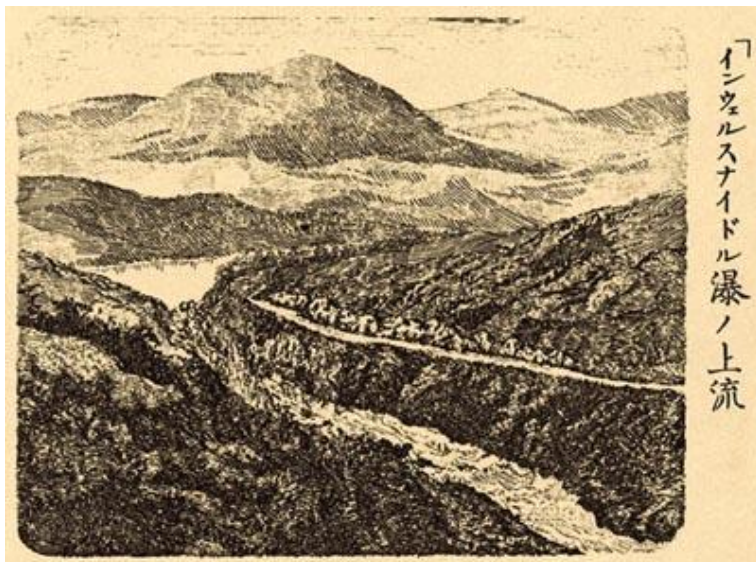
「キャッツル」湖西岸山路ノ景



明治五年九月十七日

是ヨリ再ヒ船ニ上リ、湖首ナル「ストロネチュレチャル」ノ岸ニ上リ、車ヲ傭ヒ西ニ走レハ、山巒相重ル、其馬車路ヲ開ク、巧ニ阪ヲ迂回シ、傾斜少キ路トナシ、輪転ニ碍ラス、山間ノ路ト雖トモ、其平処ヲ択メハ、車路トナスヘカラサルナシ、是ヲ斜面力ノ理トスルナリ、「トロサキホテル」ノ主人ハ、岸上ニテ別ヲ告ケ、船ニ帰り、其弟ハ猶従ヒ来ル、岸ヲ離レ岡ニ上レハ、湖水ヲ下ニ望ム、汽船ハ、烟ヲ吹き方ニ帰ラントス、馬車ハ其峰巒ヲ分キ往カントス、車上船上、遙ニ相望ミテ別ヲ惜ミ、手巾ヲ以テ相招キ、其影ヲ見送りテ、少焉ハ車ヲ停メテ去レリ、蘇地山谷ノ僻ト雖トモ、友于ノ情ハ、靄如タル、如此シ

「インウェルスナイドル」瀑ノ上流



「インウェルスナイドル」瀑ノ上流

「インウェルスナイトル」瀑布 〈蘇格ニ名高シ〉



「インウェルスナイトル」瀑布
名高シ
蘇格ニ

明治五年九月十七日

此辺ニ、沼ニ似タル小湖アリ、水岸ミナ黒土ナリ、土民此土ヲ掘テ、処処ニ堆積ス、是即チ泥炭ニテ、以テ薪ニ代ユルトナン、小湖ノ水ハ車路ニソヒ、西流スル四英里ニテ、一林ニ至ル、水声ノ喧吼スルヲ聞ク、因テ車ヲ舎テ、林蹊ヲ分ケ下レハ、小木橋アリ、水ハ其下ヲ咽ヒ流ル、水底ミナ石出テ、水淙淙トシテ岩石ヲ伝ヘ、級級ニ落ル、小橋ヲスクレハ、岩石乍チ仄立シ、水ハ沛然トシテ懸瀑ヲナシ落ル、之ヲ「インウェルスナイドル」ノ

瀑布ト云、高名ナル勝地ナリ、英国ノ画工、其景ヲ描写シテ、國中ニ伝布セルヲ、数処ニテミタリ、瀑布ノ下ニ至レハ、岩石縦横ニ立チ、種種ノ奇状ヲナシ、水ハ上層ヨリ級級ニ下リ、乍碎ケテ又合シ、橋影雲ヲ渡リ、白水ハ其下ヨリ迸リ落ツ、愈望ミテ愈勝アリ、此水流レ落テ「ロク、ロモンド」湖ニ入ル、瀑側ニ「ホテル」一宇アリ、此ニ小休シ酒ヲ傾ク、此「ホテル」ハ、湖面ヲ俯瞰シ、前ニハ奇峰仄立シテ、湖水ニ鏡ミ、亦一佳境ナリ、朝来峰容ノ奇ヲミル多シ、一トシテ其状ヲ変化セサルナシ、造化ノ人目ヲ幻スル、其変化端倪スベカラス

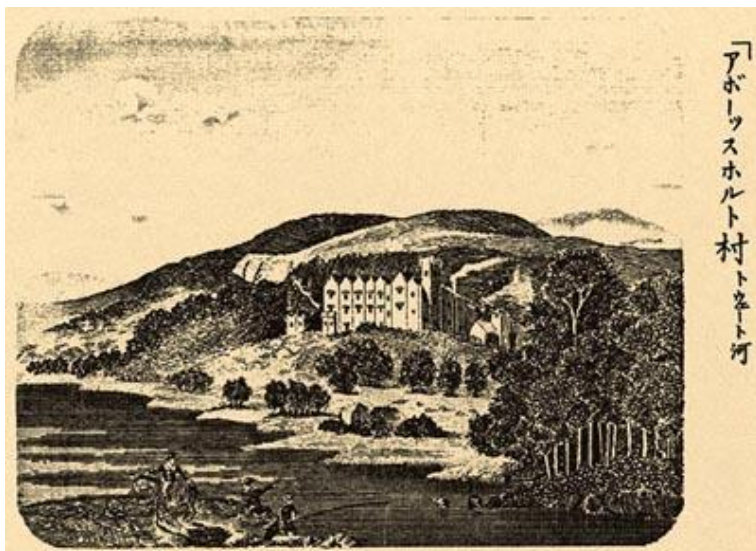
「ロモンド」湖群島ノ景



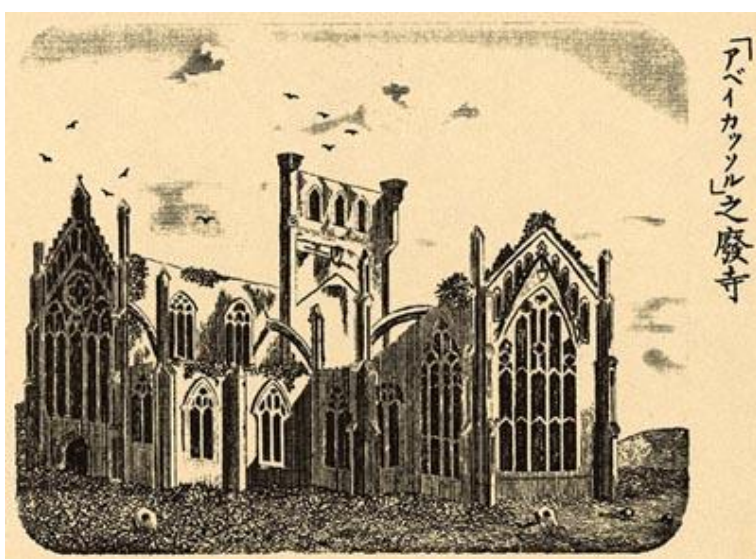
明治五年九月十七日

「ロクローモンド」湖ハ、「ペルツサ」州ニテ、第一ノ大湖ナリ（「ロク」トハ蘇語ニテ湖ト云フコトナリ）、其長サ二十英里、幅ハ狭シ、湖首ハ一英里ニモミタス、其尾ハ甚タ広ク、四英里ニモ及フアリ、総面積四十五方英里アリ、此湖ノ兩岸ニ奇峰多シ、山ニ秋葉アリ、松樹森立ス、島岬アリ、断続点綴シテ、種種ノ佳景ヲ装フ、湖上ニ蒸気郵船アリ、往返シテ遊客ヲ渡ス、著岸ノ栈橋ニハ、橋銭ヲ収ムル処多シ

「アボーツスホルト」村 〈「トウエート」河〉



「アベिकाッソル」之廢寺



明治五年九月十九日

雨頻ニフリテヤマス、二十分時ニテ、「メルロース」ノ駅ニ至ル、此駅ニ「アベイ、カッソル」ト云寺ヲ一見ス、此寺ハ一千百三十六年開基セル有名ノ靈場ナリ、三百年前、兵燹ニカハリ、毀廢シタルヲ、其後一度修繕シタレトモ、遂ニ廢頽シテ、今ハ周壁ヲ存ス、処処ニ殘欠ノ廢宇アリ、此寺ノ造構ハ、名匠ノ建築セルモノニシテ、石雕ノ精ナル、間架ノ巧ナル、近世ニ至リ、建築家之ヲ摸スレトモ、及フコト能ハス、其建築法ハ、十字頂彎弧

法トテ、石材ヲ壘累シ、周壁ノ上ヨリ、漸ニ彎弧形ヲナシ、四面ヨリ十字ニ輻輳シテ、最上ノ中点ニ結フ、其術ハ劈力ノ理ヨリ来ル、今ニ西洋各国ノ寺觀ハ、多ク此法ヲ用フ、尋常ノ住家、総石造リノ建築ニモ、此法ニテ建築セルモノアリ、只其施工ノ周密ニテ、結構ノ均円堅牢ナルコトハ、竟ニ古人ニ及フ能ハサルトナン、此寺ニハ、今ニモ近郡ノ大家ハ、遺言シテ来リ葬ルモノ多ク、廢宇ノ内外ヲ墓地トナシ、近ク一千八百六十九年ニ葬リタル石碑モアリ、此寺内ヲ回觀シ、時ヲ移シテ出タリ、雨ハ蕭蕭トシテ下リ、寺背ノ岡上ニ、秋葉黄ヲナシ、微風時ニ流リ、悄然トシテ懷古ノ想ヲナセリ

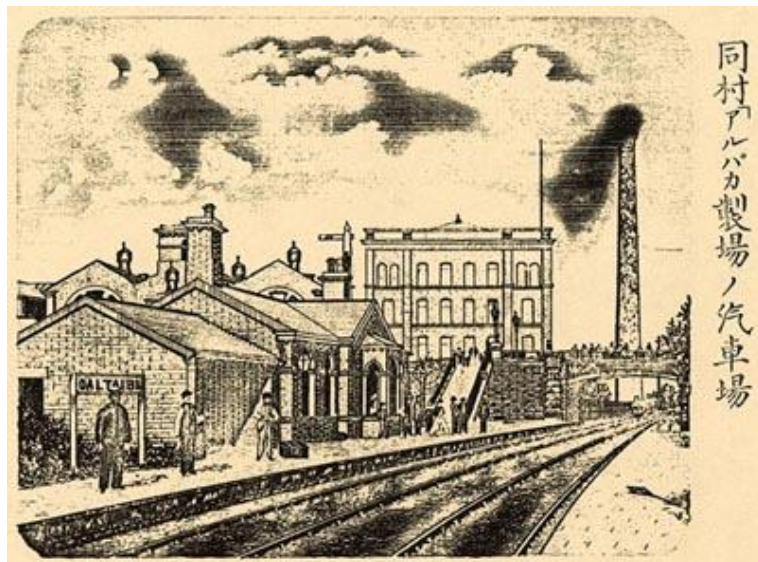
「フラットホール」府近在「ソルテヤ」村ノ寺



明治五年九月二十三日

校ノ前ニ養老院アリ、職人ノ老衰シテ用ヲナサハルモノハ、此ニ入レテ恤養ス、又病院アリ、村中ノ病人ヲ医薬ス、建立ノ寺アリ、村民ヲシテ此ニ詣リテ説教ヲ受ケ、其心性ヲ正シクス、前後ノ製造場ニテ、如此ク備ハリタルモノナシ、邑中五千ノ人口、ミナ「タイトル」氏一家ヲ仰ク、此ヲ職工市街ノ仕組トス、勸工ノ道ニ於テ、深ク意味アルコトナリ

同村「アルパカ」製場ノ汽車場



明治五年九月二十三日

陰

朝十時ヨリ、汽車ニ上リ二十四英里許ヲ走り、「ソルテヤ」邑ニ至ル、此地ハ今ヨリ二十年前マテハ、荒原ニテ、牛羊ノ遊牧スルノミナリシニ、「サー〈爵名〉タイトル」氏、「アルパカ」〈獣名〉ノ毛ヲ織ル製造ヲハシメシヨリ、工商四方ヨリ麁至シ、遂ニ一村ヲナシ、今ハ人口五千ニ及フ大村トナレリ、「アルパカ」ハ、羊ノ一種ニテ、其毛ニ光輝アルコト、絹糸ニ似テ繊維長シ、初メ此毛ヲ用ヒテ紡織セント謀ルモノアリテ、南亜墨利加ヨリ其毛ヲ仕入タリシニ、成功ヲミスシテ、其毛ヲ里味陂府ノ倉中ニ、空シク梱積シ、年月ヲ経レトモ、一人ノ買フモノナク、之ヲ海ニ棄ントスレハ、海口ヨリ拒ミ、之ヲ焼棄ントスレハ、府中ヨリ拒ミ、徒ニ倉庫ノ借料ヲ債シ、荷主ノ困屈トナリシ、「タイトル」氏モ、久シク此毛ヲ紡織スルノ術ヲ考ヘシカ、竟ニ發明スル所アリテ、其毛ヲ尽ク引受ント、荷主ニ約シタリ、其事英国ニ伝播シ、之ヲ嘲笑シテ息マス、英国ハ種種ノ奇事モ多ケレトモ、「アルパカ」ノ毛ニ、価ヲ出シ引受ル、痴漢マテ生セルナトハ、新聞紙ニテ嘲リタリ、然ルニ「タイトル」氏工夫ノ器械ニカケテ、竟ニ一ノ精布ヲ織リ出シケレハ、是ヨリ不用ノ「アルパカ」遽ニ価ヲ生シテ、其業益繁昌ナシ、此地ノ「テヤ」河ノ上流ニヨリテ、大製造場ヲ起シテ、年年盛ニ織出シ、牧野ハ変シテ烟花ノ都トナリ、之ヲ「ソルテヤ」邑ト名ケ「タイトル」氏子女ノ名ヲ以テ、各市街ヘ名号ヲアタヘ、儼然タル素封ヲナシ、政府ヨリ賞賜ヲウケ、「サー」ノ爵ヲ賜ハリ、今モ尚現存ナレト、今日ハ遠行中ニテ面会スルヲ得サリキ

「ブラットホルト」附近在「ボールトン」古寺

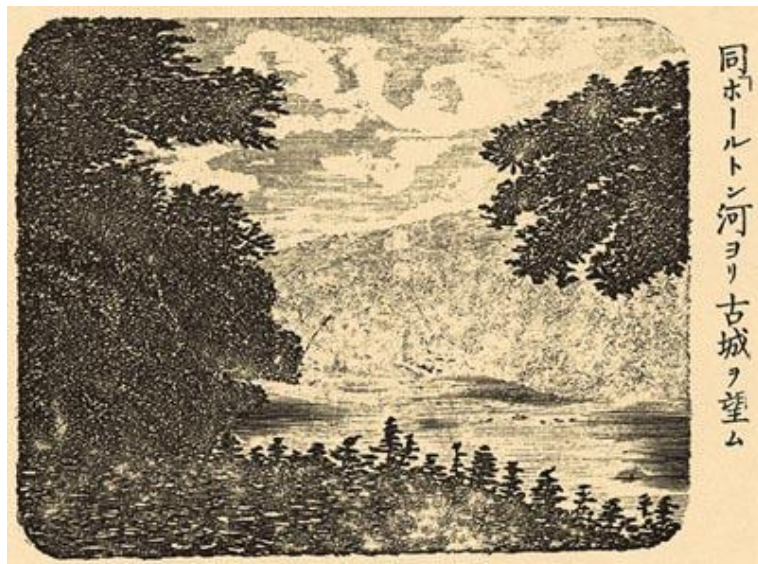


明治五年九月二十五日

晴

朝十時ヨリ歩シ、「ボールトン、アベイ」ニ至ル、是ハ七百年前ニ建立セル古寺ニテ、由縁アル霊場ナリ（後ニ記ス）、今ニ完存ス、古色闇然タリ、「ボールトン」川其背ニ流レ、岡ヲ負ヒ、野ニ臨ミ、懸瀑注下シテ、勝景掬スヘシ、此寺ニテ説教ニ就ク、約二時間ニテ出テ、歩シテ「ボールトン」河ノ上流ヲ歩シ去ル、是ヨリ河流曲折シ、時ニ浅瀬ノ沙ニ迫リテ、淙淙タルヲ聞ク、益上レハ水勢益急ナリ、秋林掩映シ、奇石狼藉タリ、時ニ中洲ヲ露出シ、疎疎ニ秋樹ヲ生ス、数百歩ニテ一ノ矮瀑ニ至ル、此处ノ水状甚タ奇ナリ、瀬声怒リ吼ヘ沫ヲ噴キテ落ち、余流ハ岩際ニタ、ヨヒテ盤渦ヲナス、今ヨリ七百年前ニ、此辺ニ住セル一著姓アリ、只一兒ヲモウケタリシニ、其兒犬ヲ牽ヒ、溪辺ニ遊ヒ、溪水ヲ越エントテ、誤テ石ニ足ヲ失シ、水ニ落ちテ死シタリ、両親之ヲ哀ミ、其菩提ノ為メニ、此河ノ下河ニ寺ヲ建立セリ、是ヲ「ボールトンアベイ」ノ縁起トス、今ニ高名ナル史伝アリ

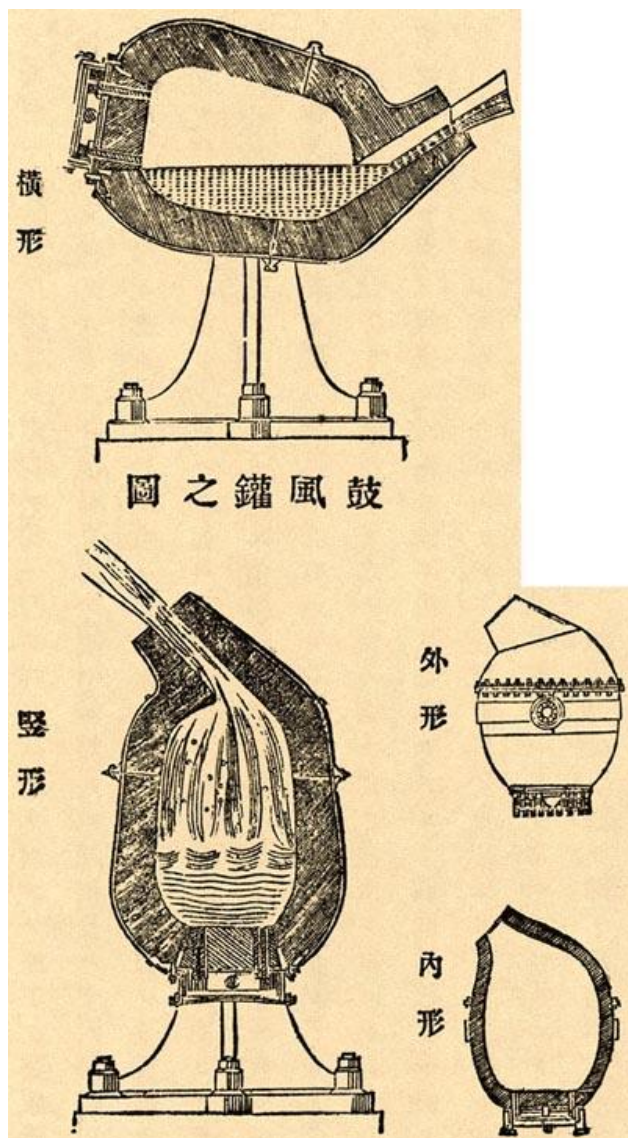
同「ホルトン」河ヨリ古城ヲ望ム



明治五年九月二十五日

此溪ノ上流ニアタリ、「ブラットホルト」ノ上水ヲ引ケル所アリ、夫ヨリ山ニ向ヒ去リ、「ホルトン、タワル」ト云古城ニ至ル、此城ノ築ケル年記ハ詳カナラス、一千五百八十九年ニ、一度廢セルヲ、後六百五十八年ニ修復シ、其後又廢シテ、今ハ四周ノ石壁ヲ存スルノミ

鼓風鐘之図



明治五年九月二十七日

是ヨリ鼓風鐘ニテ熟鉄ヲ製スル場ニ至ル、其仕掛ハ第二十七卷ニテ記シタルト同シ、社中ノ諸人側ラニアリテ、此製鉄ノ理ヲ話ス、頗ル詳ナリ、其言ニ曰ク、凡此「ベシマ」ノ器械ニテ製スル鉄ハ、生鉄ヲ鎔シ、此鐘ニテ質内ニ含ム炭素ヲ離ス所ナリ、鐘口ヨリ散飛スル火花ハ、即チ其炭素ノ飛散スル所ナリ、生鉄ノ質ハ、百分ノ鉄ニ五分ノ炭素ト、四分ノ「シリケツト」(硅土ナリ、石炭ニテ烙セルハ殊ニ此質ヲ含ム多シ)ヲ含ミテ成ル、今此仕掛ニテ、其炭素ト「シリケツト」トヲ離レ、四百分ニ一ヲ含ミタル鉄トナス、是ヲ熟鉄ト名付ク、此ハ其施工ナリ、此鐘ノ底ヨリ吹出ス、空気ニテ、炭素ヲ吹出ストキ、其火色

ヲ熟視シ、度ヲ察スルヲ要訣トス、之ヲ察視スルニ鏡アリ、羽子板ノ如キモノニ、三稜ノ
玻璃ヲ嵌ス、手輕キ鏡タリ、此鏡ヲ以テ、火花ヲ照シ視レハ、七色ノ光ヲ幻スル際ニ、黄
帯一線アリテ、分明ニ其間ヲ貫ク、是即チ炭素游離ノ色ナリ、鉄中ノ炭素ヲ分離シ、尽度
ニ至レハ、黄線減ス、是ニ於テ機ヲ牽テ、空氣ヲ鼓スルロヲ塞キ、鐘ヲ横シマニナシテ、
後側ナル鑪ヨリ、一種ノ熔鉄ヲ注キ入ル、是ハ、奧地利国ヨリ産出スル、一種ノ鉄ニテ、
之ヲ「スピーレット」ト名ク、炭素ヲ含ムノ量少ク、其質柔軟ナリ、之ヲ加ヘテ後ニ、恰
モ四百ニーノ炭素ヲ含メル熟鉄トナリ、其質ヤ、柔軟ニシテ靱ナルヲウル、凡一鐘ニ盛ル
所ノ鉄、其量七噸アリ、約十五分、乃至二十分時ニテ熔煉ヲ了ル、二十四時間ニ、百二十
五噸ヲ煉成スヘシト云

「ウォリック」古城



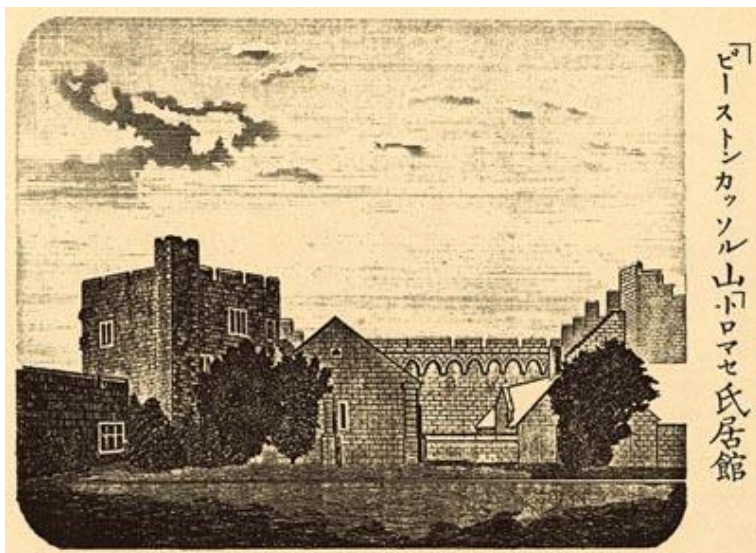
明治五年十月二日

「ウォリック」亜爾ノ古城ハ市中ニアリ、周囲ハ甚タ大ナラス、内城外廓ヲ備フ、内城ノ積ハ、四「エカー」、四周ハ石壁ヲ以テ匝圍シ、高櫓アリ、中央ニ城閣ヲ起ス、其背ニハ河水ヲ帯ヒ、以テ園庭トナス、城閣ノ内景ハ、ミナ完全セルノミナラス、今ニ主アリテ居住セルモノハ如シ、古器古画ヲ陳設ス、二千年前以太利ノ古陶、希臘ノ古像ナトアリ、又我古伊万里焼ノ磁孟二箇アリ、高案ノ上ニオキテ珍宝ノ一トセリ、古時日本ノ産物ハ、只蘭国ノ商船、年年ニ一隻来レルノミニシテ、最モ良品ヲ択ミ買フテ、歐洲ニ送り利ヲ専ラニセリ、故ニ此頃ニ輸送セル、陶器漆器ノ類ハ、歐洲ニテ万金ノ価ヲ有シ、大家ノ宝蔵ニ保存セラレテ、今ニ愛護セルコト、已ニ「ダベンシヤ」ヂェークノ館ニテモ見タリ、又此ニテモ見タルカ如シ

「ケーニルウォーチュ」古城



「ビーストンカッソル」山「トロマセ」氏居館



同門〈古城ヲ摸セルナリ〉

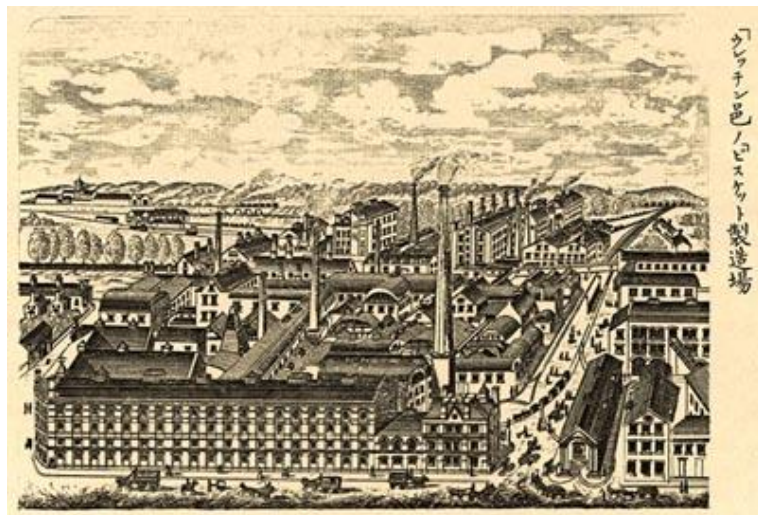


明治五年十月六日

「ビーストン、カッソル」ハ「チェスター」州ノ一小駅ナリ、此辺ハ、威爾斬山ノ余脈ニテ、岡巒起伏ヲナシ、羅馬ノ時代ニ築ケル城蹟アリ、特起ノ岡上ニ、残礎、遺壁、累累トシテ今ニ現存ス、是ヲ「ビーストン、カッソル」ト名ク、此古壘ノ岡ニ対シ、重巒アリ、其一岡ヲ占メ、新ニ城壁ヲ築キ、当州ノ豪族「トルマセ」氏居住ヲナス、此家ハ、英倫ニ於テ古キ名家ニテ、州中ニテ著名ノ豪族タリ（貴族トハ異ナリ）、当「トルマセ」氏ハ、

州中ニテ名望高キ人物ニテ「パーレメント」議員ノ選ニ、六度マテ連続ト惣札ニテ推挙サレ、三十六年間出席ヲナシ、議院中ニテモ、高名ノ政論家ニテ、其声名籍甚ナリ、英国ノ旧史ニ其例ヲミサルト云、当時年已ニ七十ニスキタレトモ、其壮健ナルコト知命ノ齡トモイフヘキホドナリ、此人ヨリ兼テ懇切ノ招状アリタレハ故ニ路ヲ迂シ、城壁ノ壮屋ニ宿ヲナス、此日ハ路ニテ日暝シ、夜中ニ著シケレハ、全家迎ヘテ、衆ニ室房分配シ、朝夕ニハ衣ヲ振フテ食堂ニ就キ、一家ト会食ス、夫婦子女相款シー見旧識ノ如シ

「ウレッチン」 邑ノ「ビスケット」 製造場

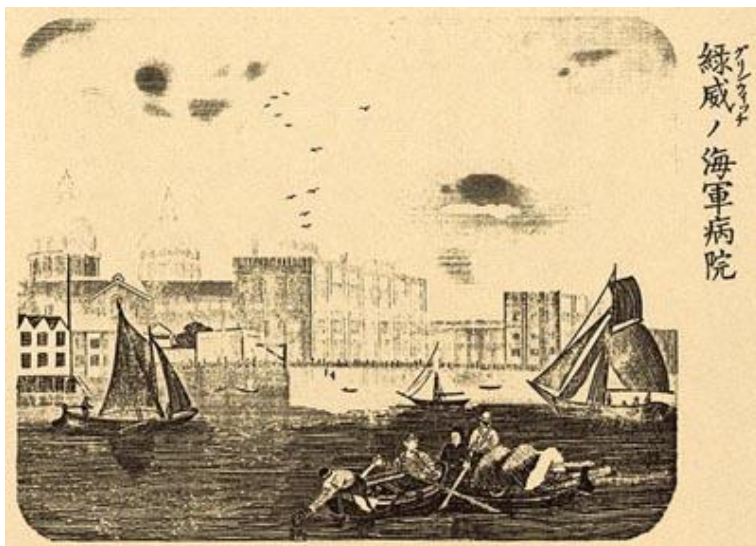


明治五年十月二十五日

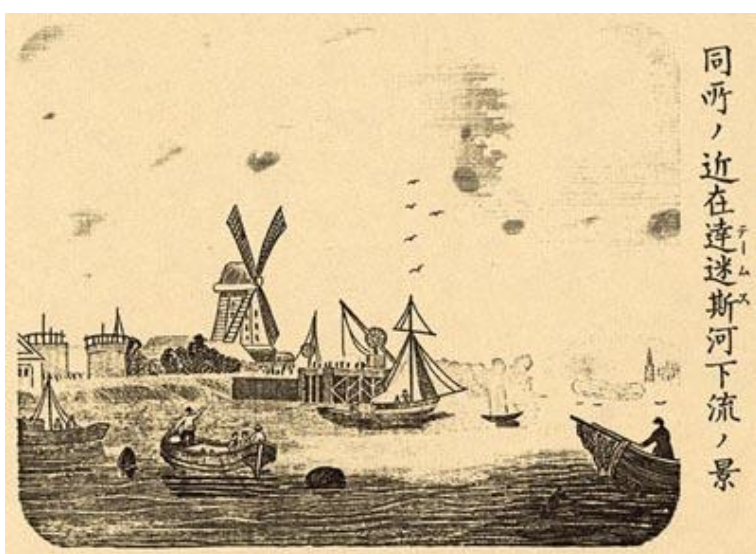
「ビスコイト」ハ、二度焼煎餅ノ義ニテ、乾餅ト訳ス、西洋ノ風俗ニテ、食後喫茶、及ヒ珈琲ノ時ニ用フル、干菓子ノ代用ナリ、其消費スル高甚タ広シ、各国ミナ之ヲ製スレトモ、英製ノ美ナルニ及ハス、英国ニ於テ製造ノ場舗多ケレトモ、第一ヲ當場トス、次ハ倫敦「シチー」ノ「ロンドン」橋辺ニ、大製場アリ、尤モ高名ナリト云、

当邑ノ製作場ハ、「ハントレー」、及ヒ「パルマス」父子ノ会社ナリ、「パントレー」氏ハ、三十年前マテ、当邑ノ一寒民ニテ、家百金ノ資ニモ乏シク、此「ビスコイト」ヲヤキテ生計ヲ営ミ、僅ニ職人三四人ヲ傭フホドノ、貧シキ暮シナリシニ、此業ニヨリテ身代ヲ起シ、遂ニ製作ヲ盛大ニナシ、満天下ニ輸送シ、今ハ世界ニ隠ナキ豪富ノ家トナリタリ

緑威ノ海軍病院



同所ノ近在達迷斯河下流ノ景



明治五年十一月二日

是ヨリ河蒸気船ニテ、流レニ遡リテ、緑威ニ至ル、
緑威ノ海軍病院ハ、元王宮ニテ、英王ノ猶予ノ地タリ、維廉第三世、及ヒ馬利后ノ時代
ニ、其宮ヲ以テ海軍ノ病院トナシタル、高名ナル所ナリ、全院ミナ白石ヲ以テ建築シ、宮
宇宏大ナリ、院内ニ英ノ海軍戦捷図、烈戦ノ図ヲ、額トナシテ掲ク、支那広東ノ戦ニテ奪
ヒタル旗、其他处处ノ分捕物アリ、海軍総督「ネルソン」氏ガ、「タラフルカル」ノ戦

ニ、仏、西、両国ノ海軍ヲ破リ、砲丸ニ打貫カレ、討死セシハ、英国海軍ノ美談ニテ、其時ニ著セル戎服ト胸衣トアリ、玻璃ノ箱ニ蓄フ、血痕淋漓トシテ猶存ス